

神戸女学院大学に対する大学評価（認証評価）結果

I 判定

2022（令和4）年度大学評価の結果、神戸女学院大学は本協会の大学基準に適合していると認定する。

認定の期間は、2023（令和5）年4月1日から2030（令和12）年3月31日までとする。

II 総評

神戸女学院大学は、キリスト教と国際理解の精神を建学の精神とし、学院の永久標語である困難な状況にある隣人への奉仕、他者理解に努めることを意味する「愛神愛隣」に基づいて、女性の育成に努めている。また、「キリスト教主義」「国際理解の精神」「リベラルアーツ教育」という教育の3つの柱のもとで教育研究活動を展開している。

2020（令和2）年には、新たに「長期目標・計画（2021-2030年度）」及び「中期目標・計画（2021-2025年度）」を策定し、長期目標・計画では、目指すべき大学像と学生像を掲げ、大学の将来を見据えたグローバル時代への対応など10の目標・計画を策定している。また、中期目標・計画では、大学全体のガバナンスのあり方に関する持続的な検証を含めたリベラルアーツ教育の可視化及び強化などの8つの目標を掲げ、毎年、重点項目を定めている。これらの目標・計画の具現化として、2024（令和6）年に国際学部と心理学部を新設することとしている。

内部質保証については、2011（平成23）年に制定した「神戸女学院大学内部質保証規程」の手続に従って推進している。全学的な内部質保証統括推進組織として、「大学企画評価会議」を設置し、重点目標及び中期目標を立て、それに対する評価に基づき改善計画を策定している。また、同会議のもとに設けている「大学自己評価委員会」「大学院自己評価委員会」が学内の各部署からの報告に基づいて点検・評価を行っている。なお、点検・評価に基づく課題のみならず、各学部・研究科等で生じた課題については各部署で検討した後に「大学企画評価会議」で情報を共有し、教員間で方向性を確認したうえで、各部署で改善に取り組んでいる。

教育については、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）や教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づいて適切に教育課程を編成しており、カリキュラムの構造及び学位授与方針との関連性を明確にするためにカリキュラム・ツリーを作成している。そのなかで特長的な科目として、リベラルアーツ教育の具現化である「クローバーゼミ」の実施が挙げられる。学部1年次に必修授業として学部・学科横断で多

様な社会的な課題をテーマとしてアクティブラーニング形式で実施しており、学生の視野を広げ、学習を活性化させるとともに、自主的に学習に取り組む力の向上につながっていることから、教育の3つの柱の実現に資する優れた取り組みとして評価できる。

また、建学の精神に基づき、地域に開かれた大学として、「地域連携ビジョン（2019～2024年）」に示した方針に沿って、社会連携・貢献に積極的に取り組んでいる。なかでも、人間科学部を中心とする「地域創りリーダー養成プログラム」は、他学科ではオープン科目として位置づけ、学科横断型で参加した学生たちが、さまざまな知見や多角的な視点を獲得する貴重な学習機会となっており、大学の掲げる方針に沿った取り組みとして高く評価できる。

このような特長的な取り組みが見られる一方で、改善すべき課題もいくつか見受けられる。定員管理については収容定員に対する在籍学生数比率が低い学科、研究科が存在し、学部及び大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。なお、2021（令和3）年度には志願者と残留率の低下の影響を受けて入学定員充足率が急落している学科がある。これに対して大学としても重大な問題と認識しており、志願者及び入学者数の確保に向けて、広報の強化だけでなく、2024（令和6）年に国際学部及び心理学部を新設するなどの対策を行っている。

また、学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針について、一部の研究科で問題が見受けられるため、改善が求められる。さらに、各学部・学科・研究科の学位授与方針に定めた学習成果の把握を多角的かつ適切に行うよう改善が求められる。

今後は、データを長期的に収集し分析する体制の構築や2024（令和6）年の学部改組に伴い規模が拡大する大学運営に向けて、内部質保証体制を適宜検証することで、より効果的に機能させ、各学部・研究科等の教育研究の改善・向上につなげていくことを期待したい。また、内部質保証の仕組みを通じて上記の問題点を解決するとともに、特色ある取り組みを伸長させ、大学の更なる発展につなげることが期待される。

Ⅲ 概評及び提言

1 理念・目的

<概評>

- ① 大学の理念・目的を適切に設定しているか。また、それを踏まえ、学部・研究科の目的を適切に設定しているか。

当該大学は創立以来、キリスト教と国際理解の精神を建学の精神とし、これを踏まえて大学の目的として、「知識を探究し、技芸を修得し、敬虔にして自由なる学風を樹立し、もって民主的教養と国際的理解とを有するキリスト教的女性を育成すること」を定めている。また、大学院の目的として、「キリスト教精神に基づく学部の教育の基礎の上に、専門の学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究

めて、文化と科学の進展に寄与すること」を定めている。

さらに、困難な状況にある隣人への奉仕、他者理解に努めることを意味する「愛神愛隣」を学院の永久標語として定めている。これを踏まえ、大学及び大学院の目的を換言したミッションステートメントとして定めており、具体的には「学ぶ者と働く者が共に学院標語『愛神愛隣』に基づくキリスト教の精神を分かち合い、時代の潮流に流されることなく、置かれた場で、利害を超え、自らの役割を感知し、果たし、人にとって真に大切なものを見分ける、共感性の高い人格への成長」を目指している。

大学の目的に基づき、各学科・各研究科の人材養成上の目的と教育目標を定めており、例えば、文学部英文学科は、「英米文学文化、言語コミュニケーション、グローバル・スタディーズの三つの専門コースの教育研究を通して、高度な英語運用能力、深い異文化理解、豊かな思考力と感性を備えた、国際的に活躍する人材の育成を目指す」としている。また、人間科学研究科博士前期課程では、「本研究科の博士前期課程は人間科学専攻の1専攻とし、①臨床心理学、②人間行動学、③環境科学、④健康科学の相互に関連した4つの専門分野を置き、個々の分野の研究を深化させるとともに、相互に有機的関連を保ちつつ教育・研究を展開することを目指す」と定めている。以上のことから、適切に定めた大学の目的を踏まえ、各学科・研究科における目的も適切に設定している。

② 大学の理念・目的及び学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

大学及び研究科の目的、各学科・研究科の目的は、「神戸女学院大学学則」（以下「大学学則」という。）及び「神戸女学院大学大学院学則」（以下「大学院学則」という。）に定めている。目的やミッションステートメントをホームページや『学修便覧』に示し、周知している。

教職員に対しては、各学則や関連規程を例規集に掲載することで周知を図り、社会に対しては、ホームページ、大学案内、学院の広報誌である『学報』、学生や教員の活動を紹介する広報誌『Vistas』を通じて、公表している。

さらに、大学の目的に対する学生の理解を深めるため、さまざまな取り組みを行っている。具体的には、チャペルアワー、アッセンブリアワー等のほか、全学部学生の必修科目として、1年次を対象とする「キリスト教概説」や2年次以上を対象とする「キリスト教学」を設置し、大学院学生に対しては、「キリスト教学」を選択科目として設置することで、大学の目的の浸透に努めている。

以上のことから、大学の目的及び学部・研究科の目的を学則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表している。

③ 大学の理念・目的、各学部・研究科における目的等を実現していくため、大学として将来を見据えた中・長期の計画その他の諸施策を設定しているか。

大学の目的、各学部・研究科における目的等を実現するために、2012（平成24）年に第1期「長期目標・計画（2012.4～2022.3）」を策定している。長期計画の「取り組みの概要」として「英語教育の強化」「リベラルアーツ教育の整備」「学習支援体制の充実」「国際化の推進」「社会連携の強化」を掲げ、「神戸女学院大学—これからの道標（2021～2030年度）」という名称で全学的に周知した。

その後、更なる進展を目指し、2016（平成28）年度から2020（令和2）年度までの5年間の「中期目標・計画」を策定している。さらに、2020（令和2）年を迎えたところで、そこまでに達成したものと今後の新たな取り組みについて検討し、新たに「長期目標・計画（2021～2030年度）」と「中期目標・計画（2021～2025年度）」を策定した。中期目標・計画のなかで、「本学の強みを活かして、意欲ある学生を育成する好循環をつくる」という趣旨で大学の将来を見据えた計画を策定するとともに、「長期目標・計画（2021～2030年度）」に10の目標・計画を定め、「神戸女学院大学—これからの道標（2021～2030年度）」として示している。具体的には、教育に関して、「リベラルアーツ教育の充実と応用」「学修環境、学習支援環境の充実」を、学生支援に関して「キャリア・サポート体制の充実」を、国際化への対応として「グローバル時代への対応」「SDGsを見据えた社会貢献・地域連携の強化」に取り組むことを示している。また、教育の質保証に取り組むべく、「『これからの道標』の深化、その評価と検証」「IR（Institutional Research）機能の推進・強化」を掲げているほか、「広報体制の強化」「学院創立150周年に向けた取り組み」「本学への帰属意識の向上」に取り組むことを明示している。

以上のことから、社会の変化等を考慮しながら、大学の将来を見据えた中・長期の目標・計画を策定している。

2 内部質保証

<概評>

① 内部質保証のための全学的な方針及び手続を明示しているか。

「神戸女学院大学内部質保証規程」において、全学的な内部質保証の目的として、「教育研究水準の質向上を継続的に保証するために、また、大学の理念・目的を実現するために、教育研究活動及び管理運営の状況について、自主的に自己点検・評価を行い、その結果をもとに改革・改善を行う」ことを明示している。さらに、同規程において、内部質保証の体制や手続についても明記している。具体的には、全学的な点検・評価推進体制の確立として、学長のもとに「大学企画評価会議」を置き、「大学企画評価会議は、大学の目的を実現する重点目標のほか、中期目標を立て、評価に基づきそれらの改善計画を行う」ことを明記している。

定期的な点検・評価の実務については、「大学自己評価委員会」「大学院自己評価委員会」が担当し、「神戸女学院大学内部質保証規程」に定めた評価基準及び評価項目についての点検・評価を行っている。また、点検・評価に関する実務については、学部・学科・研究科・専攻、学内の各種委員会、研究所、図書館、キャリアセンター等、事務組織の諸部署が担当することを明記している。

なお、内部質保証に関する基本方針や内部質保証体制図はホームページで公開している。

以上のことから、内部質保証のための全学的な方針及び手続は、学外に対しても適切に明示しているといえる。ただし、③で後述するように、各学部・研究科等の組織で生じた課題については、各部署で改善策を検討し、「大学企画評価会議」で全学的に状況を把握するとともに、教員間で情報を共有し、方向性を確認する体制となっているため、内部質保証体制図において、この実態をより適切に示すことが望まれる。

② 内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているか。

「神戸女学院大学内部質保証規程」に基づき、2011（平成 23）年度から副学長を議長とする「大学企画評価会議」が内部質保証の統括推進を担っている。また、内部質保証に係る組織として、同会議のもとに「大学自己評価委員会」及び「大学院自己評価委員会」を設置しているほか、「外部評価委員会」を設けている。

具体的には、「大学企画評価会議」は副学長を議長として、学長、副学長、教務部長、学生部長、学生副部長、入試部長、FDセンターディレクター、大学事務長及び学長室課長のほか、学長が必要と認めた者で構成し、全学的な点検・評価を行っている。また、「大学自己評価委員会」及び「大学院自己評価委員会」は、委員長のFDセンターディレクターをはじめとする各学科から選出された者、チャプレン職にある者、体育研究室及び共通英語教育研究センターから選出された者、大学事務長、学長室課長、総務課長、経理課長で構成し、定期的な点検・評価に関する実務を担当し、その実施体制の責任を担っている。さらに、大学の内部質保証に詳しい学識経験者、卒業生のほか、学長が必要と認めた者で構成した「外部評価委員会」が点検・評価を実施することで、大学の点検・評価活動の妥当性と客観性を高めている。

上記の規程に基づき、「大学企画評価会議」では、「大学自己評価委員会」「大学院自己評価委員会」が点検した各学部・学科・研究科・委員会からの報告書を更に点検・評価している。また、「外部評価委員会」からの評価を受け、その結果を学内外に公表し、必要に応じて改善指示を出す体制としている。

以上のことから、内部質保証の推進に責任を負う全学的な体制を整備しているといえる。

③ 方針及び手続に基づき、内部質保証システムは有効に機能しているか。

教育の3つの柱である「キリスト教主義」「国際理解の精神」「リベラルアーツ教育」を踏まえて、大学及び大学院の学位授与方針、教育課程の編成・実施方針、学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）を設定している。各学部・学科、研究科では、大学及び大学院の3つの方針に沿って各種方針を策定し、「学務委員会」「大学院委員会」で審議・承認している。これらの方針に関する成果を大学・大学院レベル、学部・学科、研究科・専攻レベル、科目レベルの3段階で検証することをアセスメント・プランとして掲げている。

教育研究活動の適切性の点検・評価についても、上記と同様の3レベルで行っている。科目レベルの点検・評価として、学部・研究科では「授業評価アンケート」を通じて学生の授業評価に基づく改善を図っているほか、「教員活動評価表」によって、教員評価を実施している。なお、2012（平成24）年度より、学長室のもとに設けたFDセンターにおいて卒業時・修了時に学びの成果に関するアンケートを行い、その結果を学内で閲覧可能とすることで、授業における教育の成果を把握し、改善に取り組む際に活用している。

各学部・学科・研究科、委員会レベルでは、年度・組織別の点検・評価に加え、評価項目別の点検・評価を実施し、各年度はじめにその結果を「年度別活動評価報告書（A表）」及び「評価項目別点検評価報告書（B表）」にまとめている。また、「中期目標・計画」の達成状況を確認するため、5年ごとに中期計画の実行状況を点検・評価している。これらの点検・評価の結果に基づき、大学及び大学院の「自己評価委員会」が点検している。そのうえで、全学レベルとして、「大学企画評価会議」で更に全学的な観点から点検・評価し、大学としての課題を抽出している。さらに、「外部評価委員会」による評価を受け、点検・評価の結果と併せて外部評価の結果を「大学企画評価会議」にて報告している。大学全体に関わる課題については、同会議から該当する組織に改善の検討を依頼しており、その他の課題については、各組織の長が構成員となっていることから、自己点検・評価の結果や外部評価の結果について学内で情報を共有し、各学部・研究科等の組織において改善に取り組んでいる。なお、上記のような定期的な点検・評価のみならず、各学部・研究科等の組織で生じた課題についても、随時「大学企画評価会議」で情報を共有することで各組織が改善策を検討・実行し、その結果を再度同会議で報告し、大学として各学部等の状況を把握するとともに、教員間で情報を共有できている。

このような3つのレベルでの点検・評価に基づく改善や各学部・研究科等で生じた課題の改善について、内部質保証の推進に責任を負う組織として位置づけている「大学企画評価会議」で随時報告し、情報を共有することで各学部・研究科での改善・向上の取り組みにつながっており、大学全体のPDCAサイクルが一定程度

機能している。

また、2024（令和6）年の学部改組についても、「大学改革委員会」「大学将来計画委員会」で協議し、各学部・研究科の教授会で審議し、「大学企画評価会議」に報告することで学内の情報共有を図り、新たな学部・学科体制の実現につなげている。今後の課題として、大学においても認識しているように、学長室がIR機能を有して情報発信等に取り組むとしているが、各種アンケート結果等の情報収集及びその分析に取り組み、結果を蓄積することで実証的な点検・評価に活用することが期待される。

行政機関や認証評価機関からの指摘事項への対応については、当該大学では設置計画履行状況等調査に係る指摘事項はなく、認証評価機関からの指摘に対しては、FDセンターより立案し、「大学企画評価会議」にて承認した後、学長が指示する体制で順次改善を実施している。評価体制の妥当性についても、毎年、FDセンターからの立案を「大学企画評価会議」で確認と承認を行っている。なお、当該大学では毎年開催している「教授会研修会」を通じてファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）活動に取り組み、FD活動を通じて教育の質保証に関する教員の認識を高め、情報共有を図っている。

以上のことから、自己点検・評価の結果や各学部・研究科等で生じた課題を踏まえて各学部等で改善策を検討し、ボトムアップで取り組み、その状況や進捗を「大学企画評価会議」で把握し、情報を共有することによって内部質保証が機能している。

④ 教育研究活動、自己点検・評価結果、財務、その他の諸活動の状況等を適切に公表し、社会に対する説明責任を果たしているか。

点検・評価結果は、ホームページ内の「教育情報の公開」ページで公開している。「外部評価委員会」の報告及びそれに対する大学の応答も外部から閲覧できる。また、教育研究活動については、随時ホームページの「News」欄で公開するほか、各学部・学科・研究科のホームページで公開している。さらに、卒業生・修了生アンケートの結果の一部や学校教育法施行規則で公表が求められている情報についても、ホームページで公開している。

教育研究活動や教員の教育・研究活動の成果は、広報誌『Vistas』等を刊行し、『神戸女学院大学 専任教員 教育・研究業績報告集』を毎年ホームページで公開している。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大における対応の方針等については、ホームページ上で「新型コロナウイルス感染症関連情報」を随時更新しており、わかりやすく示している。

これらの情報をいずれも適宜更新しており、大学の諸活動に係る情報を適切に

公表し、社会に対する説明責任を果たしているといえる。

- ⑤ 内部質保証システムの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

内部質保証の適切性の点検・評価は、「大学企画評価会議」と大学及び大学院の「自己評価委員会」が定期的に検証を行い、必要に応じて改善しているとしている。具体的には、「中期計画・目標」を策定し、それに沿った点検項目の設定及び「年度別活動評価報告書（A表）」「評価項目別点検評価報告書（B表）」の点検等を行っている。

今後も、内部質保証システムの適切性について引き続き検証し、「大学企画評価会議」の役割の明確化を図っていくことが期待される。

3 教育研究組織

<概評>

- ① 大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。

建学の精神を踏まえた大学の目的に基づき、文学部（英文学科、総合文化学科）、音楽学部（音楽学科）、人間科学部（心理・行動科学科、環境・バイオサイエンス学科）の3学部5学科を設けている。大学院については、文学研究科（英文学専攻、比較文化学専攻）、人間科学研究科（人間科学専攻）、音楽研究科（音楽芸術表現専攻）の3研究科4専攻を設置している。

附属研究所として、「神戸女学院大学研究所」及び「女性学インスティテュート」を設置し、紀要『神戸女学院大学論集』『女性学評論』の発行、講演会の開催等、学術研究を促進している。また、全学生の英語力を強化する目的で2013（平成25）年に設置した「共通英語教育研究センター」をはじめ、「宗教センター」「国際交流センター」「教職センター」「キャリアセンター」「情報処理センター」「視聴覚センター」等のセンターを設けている。これらのセンター・附属施設は、学部・学科・研究科・専攻での教育研究と密接に関連し、学生の教育支援にあたっている。例えば、「教職センター」では、教職課程を履修する学生のために必要な調整、支援を行い、教職課程における点検・評価及びそれに基づく改善・資質向上を図っている。

以上のことから、大学の目的にふさわしい学部・研究科や附置研究所、センター等の教育研究組織を適切に設置しているといえる。

- ② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育研究組織の適切性の点検・評価は、毎年点検・評価を通じて行っており、

各学部・学科・研究科の責任者が点検を行い、「大学自己評価委員会」「大学院自己評価委員会」「大学企画評価会議」及び「外部評価委員会」における評価とその結果に基づく改善に取り組んでいる。

点検・評価の結果に基づく改善・向上の具体的な取り組みとして、2021（令和3）年度から学部の教育研究組織の改革を検討している。学部の志願者減少に対応するため、2024（令和6）年度に国際学部と心理学部の新設を構想している。現在の文学部英文学科を改組・独立して国際学部（英語学科、グローバル・スタディーズ学科）とし、人間科学部心理・行動科学科を心理学部心理学科にする予定である。設置案の検討にあたっては、「大学改革委員会」「大学将来計画委員会」で協議し、各学部・研究科の教授会で審議を行っており、「大学企画評価会議」にはその都度報告し情報共有している。設置後は、組織の点検・評価を行い、その適切性について検証していくことが望まれる。

4 教育課程・学習成果

<概評>

① 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

ミッションステートメントや教育の3つの柱として掲げる「キリスト教主義」「国際理解の精神」「リベラルアーツ教育」に基づいて、全学的な学位授与方針として「7つの力」を設定している。具体的には、「愛と奉仕の精神」「豊かな感受性」「論理的思考力」「コミュニケーション力」「専門的知識と技能」「創造力と企画力」「主体的に学び続ける力」を定め、これに基づき、授与する学位ごとに学位授与方針を定めている。例えば、文学部では、「人間の精神・言語・文化・社会に関わる専門分野の体系的な知識と技能を備え、専門分野における問題を理解し解決する力」「豊かな教養と広い視野、複数分野を組み合わせる思考方法を備えることで、文化や社会の諸問題を複合的に捉えて、ものごとの本質を見きわめる力」「自ら課題を設定し取り組む主体性・創造性と、それを的確に伝える力」「母語および外国語の高い運用能力と異文化理解力を備え、多様な背景をもつ他者と共感・共生する力」「社会の一員としての高い倫理意識を備え、置かれた場において役割を果たすべく自らを高めていく力」の5項目を示し、これらを身につけた者に学位を授与することを定めている。

人間科学研究科博士前期課程では、「人間の心と身体、社会や人間を取り巻く自然、環境、その成り立ちや働き、その多様性について専門的知識を幅広く備え、研究倫理を遵守しつつ、豊かな感受性で、多面的視点から人間や環境を理解する能力」等を掲げている。ただし、文学研究科博士前期課程では、修士（英文学）と修士（比較文化学）の学位を授与しているが、授与する学位ごとの学位授与方針を定めていないため、改善が求められる。

上記の学位授与方針はホームページ、『神戸女学院大学大学院文学研究科ハンドブック』等において公表している。

② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

全学の教育課程の編成・実施方針は、学位授与方針に則り、次の6項目の方針に基づいた教育課程を編成している。具体的には、「学生が専門的知識を習得する各分野の専門科目を体系的に編成すること（「メジャー科目」）」「学生が他学科の専門科目を体系的に学べるようカリキュラムを編成すること（「オープン科目」「マイナー科目」）」「様々な分野の学生同士の交流、学外の人々との協力を促す科目を設定すること（「クローバーゼミ」「プロジェクト科目」など）」「国際理解や国際協調のために必要な英語やそのほかの外国語の科目を設定すること（英語やその他の外国語科目）」「社会に貢献するために必要なキリスト教精神を育み、心身を鍛え、言語・数理・情報を駆使する能力を養成する科目を設定すること（「コア科目」）」「単なる職業上のキャリアにとどまらず、『人が生涯を通じて行う仕事の総体』としてキャリアを理解し、その意味でのキャリア形成に役立つ科目を設定すること（キャリア系科目）」である。大学院においても同様に、教育課程の編成・実施方針として3項目を明記している。

これに基づき、各学部・学科・研究科でも、教育課程の編成に対する考え方を明確に示したうえで具体的な方針を定めている。例えば、人間科学部環境・バイオサイエンス学科の教育課程の編成・実施方針では、「環境・生態領域」「バイオサイエンス領域」「科学教育・情報科学領域」の3領域が相互に連携しながら、学科の教育目標に向かって知識と技術の涵養を図るため、カリキュラムは自然科学の基礎を学ぶ導入教育から専門教育に至るまで、段階的に専門知識を修得できるように構成することを定めている。

また、大学院については、音楽研究科では、専門分野・研究領域ごとに研究領域実技や選択科目、課題研究を編成することや、キリスト教主義に基づく西洋音楽芸術をより深く理解する科目を設定すること等を定めている。ただし、文学研究科博士前期課程では、授与する学位ごとに教育課程の編成・実施方針を定めておらず、同研究科後期課程及び人間科学研究科博士後期課程では、教育課程の編成・実施方針に教育課程の編成に関する基本的な考えを示していないため、改善が求められる。

上記の教育課程の編成・実施方針は、ホームページや『神戸女学院大学大学院文学研究科ハンドブック』で公表している。

③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

全学部において、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程及び大学の目標を達成するため「コア科目」「オープン科目」「メジャー科目」「教職課程科目」「日本語教員養成課程科目」「交換留学生のための科目」の6科目群で構成している。

「コア科目」は、社会で必要な素養を身につけるための科目群であり、「キリスト教学」「外国語（英語）/その他の外国語（第二外国語）」「IT」「体育学」「クローバーゼミ」を含む5つの必修科目群で構成している。「オープン科目」は専門以外の学びで視野を広げる科目群であり、各学科提供科目と全学オープン科目で構成している。なお、「コア科目」「オープン科目」「クローバーゼミ」を教育の3つの柱の1つである「リベラルアーツ教育」の実現化として位置づけている。

上記の授業科目を受けて、各学科の専門性を深めることを目的として「メジャー科目」を体系的に設置している。また、上記の必修科目以外に次の2つの選択プログラムを設置している。1つ目は、「マイナープログラム」であり、これは「7つの力」を更に養成するために、学生の所属する専門分野以外に1分野を選択し、各分野のマイナープログラムアドバイザーの指導を受けつつ、必要な単位を修得するプログラムとなっている。2つ目の「特色プログラム」は、学生のキャリア形成に深く結びついた科目群で、学部の枠組みを超えた更に新しい分野について系統的・重点的に学べるものであり、「キャリアデザインプログラム」「通訳・翻訳プログラム」「地域創りリーダー養成プログラム」がある。これらのように、全学対象の必修科目「コア科目」「オープン科目」、各学科の必修科目「メジャー科目」のほか、「教職課程科目」「日本語教員養成課程科目」「交換留学生のための科目」と全学対象の選択科目「マイナープログラム」「特色プログラム」で構成しており、教育課程を体系的に編成している。

研究科においても、教育課程の編成・実施方針に基づき、「専門科目」「キリスト教学」「演習科目」を設定している。これらの教育課程の編成については、科目タイプ、そのレベル等に基づき、科目ナンバリングを導入し、順序性及び体系性を確保している。また、カリキュラム・ツリーを作成し、ホームページにて公表している。

なお、「大学自己評価委員会」「大学院自己評価委員会」を中心として教育課程の点検・評価を行い、「大学企画評価会議」のもとで教育課程に関するPDCAサイクルを機能させている。

④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

授業は各学科に応じて講義・演習・実験・レッスンなどの形態で行っており、学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うためのさまざまな措置を講じている。

単位の実質化に関しては、1年間に履修登録できる単位数の上限を設定しているが、学科で内規を定めており、これに基づき卒業年次の学生については上限を緩

和している。基本的には学生主事が当該学生との面談により適正なレベルであると判断した場合に登録を許可することになっているが、学生の履修状況を把握し、適切性を検証しながら、今後は全学的なルールを作成することが望まれる。

シラバスは全学で統一した形式で作成しており、内容についても前回の大学評価（認証評価）での指摘を受けて、組織的な確認体制を確立し、点検を行っている。また、授業アンケートでシラバスに関する項目を設けており、それにより授業内容との整合性を確認している。

授業形態、授業方法では、座学型授業のほか、4年次の学生全員に対して卒業論文、卒業プロジェクト、卒業研究を通じて学生の主体的参加を促している。これらと有機的につなげることを目的として1年次後期に必修授業「クローバーゼミ」を実施している。この「クローバーゼミ」において、学部・学科を超えて少人数のアクティブラーニングを行っており、例えば、現代における女性の生き方、ジェンダーや多様性の観点を踏まえた人文科学・社会科学・自然科学の異なる3分野にわたる多様なテーマについて考察し、学生同士でディスカッション・発表を行っている。これを通じて、多角的な視点で物事を捉える力を養い、学習の活性化及び学生が自ら学ぶ力を修得することにつながっていることから、大学の掲げる教育の3つの柱の実現に資する優れた取り組みとして評価できる。

また、全学的に学生の学びをサポートするため、「アカデミック・アドバイザー制度」を置き、全学生に「学修計画書（ポートフォリオ）」を配付し、それに基づき、学期ごとに専任教員が学生と面談を行っている。

大学院においては、研究科ごとに効果的な教育を行うために、例えば、文学研究科では『神戸女学院大学大学院文学研究科ハンドブック』を配付し、学位論文の書式や審査等についての理解を促進している。

⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

学部における成績評価、単位認定は「神戸女学院大学授業科目の課程修了の認定に関する細則」に定め、『学修便覧』に明記し、学生に周知している。大学院では「神戸女学院大学大学院課程修了の認定に関する規程」において成績評価及び単位認定について規定している。成績評価の客観性や厳格性を担保するための措置として、「クローバーゼミ」及び「共通英語教育研究センター」が提供する科目の一部については、シラバスや成績評価方法及び基準の共通化を行い、教員ごとの評価に差異がないように配慮している。また、既修得単位については、学則及び修学規則に基づき、教授会の議を経て単位を認定しており、その要件を『学修便覧』に示している。

各学部・研究科における卒業・修了の要件は、学則、大学院学則で定めており、学位論文の審査については「神戸女学院大学学位規程」に基づき、各学部・学科・

研究科において規程、内規を策定し、ホームページ等を通じて学生に周知している。学部においては、各学部で科目区分ごとに定めた卒業要件単位数を満たし、教授会がその卒業を認めた者に学位を授与することを学則に明示している。研究科では、研究科ごとの修了要件単位数を満たし、課題研究や学位論文、演奏の審査に合格することと示している。

大学院における学位論文審査基準について、例えば、人間科学研究科では、修士論文審査基準として「当該研究領域において意義を有すると認められる新しい学問的知見を含み、高度な専門研究に繋がる基礎的な研究能力を示すものである」こと等の6項目を定めている。

なお、「大学自己評価委員会」「大学院自己評価委員会」を中心として、成績評価、単位認定の適切性の点検・評価を行い、「大学企画評価会議」のもとでPDCAサイクルを機能させている。

⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

各学部・学科では、学生の学習成果の最も重要な指標は、卒業論文、卒業制作、卒業演奏等と捉えており、この評価を適切に実施するために、複数の教員による論文、演奏の審査や公開の発表会の機会を設けることで評価に偏りが生じないようにしている。例えば、音楽学部音楽学科では、卒業制作、卒業演奏、卒業公演は原則として全て公開で行い、透明性の確保に努めている。大学院も同様に、学位論文や演奏等を重要な学習成果として捉えており、修士論文等で複数名により審査、公開の発表会を行い、透明性と客観性を確保し、学習成果の把握・評価に努めている。

しかし、学位授与方針に明示した学習成果の把握に関しては、学部・研究科ともに上記の卒業論文、卒業制作や卒業演奏のほかには、卒業生へのアンケートや授業アンケートの実施にとどまっているため、多角的かつ適切な測定方法の検討が求められる。

⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教育課程及びその内容、方法の適切性については、いずれの学部・研究科も「大学自己評価委員会」「大学院自己評価委員会」のもとで点検・評価を行っている。これまでに、2020（令和2）年度に「大学企画評価会議」のもとで、「7つの力」を学位授与方針に融合して一本化することにより、各授業科目の学位授与方針との関連づけを明確にするなどの改善を図ってきた。また、現行カリキュラムの策定にあたって、2013（平成25）年度に「大学企画評価会議」より発議し、「2018年問題ワーキンググループ」を中心として、「学務委員会」、教授会、理事会への報告、協議を行うとともに「大学企画評価会議」で方向性を確認し、教授会でカリキュラ

ム案を策定している。また、さまざまな学習成果の集積をアセスメント・プランとして取りまとめ、2020（令和2）年度末に公開しているが、これを組織的に検証し、その結果をもとに改善・向上に取り組むことが望まれる。

⑧ 教育課程連携協議会を設置し、適切に機能させているか。（学士課程（専門職大学及び専門職学科）／大学院の専門職学位課程）

該当なし。

<提言>

長所

- 1) 全学科の1年次後期必修科目の「クローバーゼミ」を設け、学部・学科を超えて少人数のアクティブラーニングを行っており、例えば、現代における女性の生き方、ジェンダーや多様性の観点を踏まえた人文科学・社会科学・自然科学の異なる3分野にわたる多様なテーマについて考察し、学生同士でディスカッション・発表を行っている。これを通じて、多角的な視点で物事を捉える力を養い、学習の活性化及び学生が自ら学ぶ力を修得することにつながっていることから、大学の掲げる教育の3つの柱の実現に資する優れた取り組みとして評価できる。

改善課題

- 1) 文学研究科博士前期課程では、授与する学位ごとに学位授与方針及び教育課程の編成・実施方針を定めていない。また、文学研究科博士後期課程及び人間科学研究科博士後期課程では、教育課程の編成・実施方針に教育課程の編成に関する基本的な考えを示していないため、改善が求められる。
- 2) 学習成果の把握・測定としては、卒業論文と卒業生アンケートにとどまっておらず、これまで「7つの力」の可視化のさまざまな方法を議論・検討しているが、学位授与方針に示した学習成果の測定方法は定まっていないため、多角的かつ適切に行うよう改善が求められる。

5 学生の受け入れ

<概評>

① 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

学位授与方針、教育課程の編成・実施方針との整合性を踏まえた大学全体の学生の受け入れ方針を策定しており、学力の3要素（基礎的な知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性）や求める学生像を定めている。具体的には、「自分で決めた目標に対して自ら行動したい人」「専門的知識を深く学びたい人」「現代社会の課題に強い関心があり、複合的な視点から取り組みたい人」「多種

多様な人とコミュニケーションし、世の人々のために尽したい人」の4項目を求める学生像として明示している。

大学全体の方針に基づき、各学部・学科及び研究科の学生の受け入れ方針を定め、それぞれ求める学生像を明示している。例えば、文学部では、「世界の文化や社会の問題に強い関心があり、主体的に関わる志をもつ人」「複数の学問分野を学び、事象を多角的に捉える姿勢を身につけたい人」「高度の言語運用能力と専門知識を身につけて、社会に貢献したい人」の3項目を明示している。

大学院についても同様に、学生の受け入れ方針を定め、「高度な専門的知識を深く修得することを志す人」「修得した技能を活かし、より善い社会の実現を志す人」「他者への共感性を備え、隣人に仕えることを志す人」の3項目を示している。これらを踏まえて研究科の課程ごとに学生の受け入れ方針を定めており、文学研究科博士前期課程では、「国際的視野に立った研究を遂行する基礎となる知識と能力をもった人」「明確な研究目的をもって課題を積極的に発見し、探求する意欲がある人」等を示している。

上記の学生の受け入れ方針は、オープンキャンパスや高等学校教員向けの説明会や大学院説明会等で周知を図るとともに、ホームページ、『入学試験要項』や『入試ガイド』で公表している。

② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

入学者選抜制度として、大学では、学校推薦型選抜（公募制、指定校制、特別指定校制、音楽推薦）、推薦入学試験、総合型選抜、帰国子女入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験、国際バカロレア入学試験、一般選抜、大学入学共通テストを利用する入学試験（前期日程、後期日程）、編入学試験を設けており、学生の受け入れ方針に基づき、多様な学生の受け入れを目的とした幅広い選抜方法を実施している。なお、大学院では、各研究科の課程ごとに、筆記試験、面接、英語によるエッセイ、論文、実技等によって選抜している。

授業その他の費用、各種奨学金、高等教育の修学支援に関する新制度の情報は、大学案内、『入学試験要項』『入試ガイド』に掲載し、ホームページ等で情報提供を行っている。また、障がいのある受験生に対しては、事前相談に応じることを『入学試験要項』に明記し、合理的配慮を行って適切に対応している。2021（令和3）年度入学者選抜では、新型コロナウイルス感染症拡大への対応・対策を十分に実施し、志願者の受験機会を確保している。

大学の入学者選抜に係る事項は「入学試験委員会」で策定し、入学者選抜の業務は、「入学センター・広報室」が中心となり、教員組織との連携のもとで実施している。また、大学院の入学者選抜に係る事項は、「大学院委員会」で策定し、各研

究科を所管する学部事務室が中心となり、教員組織と連携して入学者選抜の業務を行っている。

入学試験問題の作成は、入試問題出題委員と点検委員が担当し、出題ミスを防止している。入学試験の実施に際しても、試験監督、面接者、採点者は必ず複数名配置することでチェックを徹底し、ミスを防止している。合否判定については、「入学試験委員会」で原案を作成し、大学では「合否判定教授会」、大学院では「大学院委員会」で審議し、学長が合格者を決定している。

以上のことから、学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、複数の確認・審議を経ることで公正な入学者選抜を実施していると判断できる。

③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

大学における定員管理については、概ね適正な範囲で管理しているが、音楽学科では過去5年間の入学定員に対する入学者数の平均比率と収容定員に対する在籍学生数比率が低く、人間科学部心理・行動科学科では入学者数の平均比率が高いため、改善が求められる。このことについて、音楽学科では、入学試験広報の強化、カリキュラムの見直しと特色化、入学試験内容の見直しなど、定員充足のための取り組みを実施し、効果が出はじめている。また、2022（令和4）年度より、音楽学科の入学定員を見直し、入学者数が過剰になりがちであった心理・行動科学科の入学定員を見直すことで、適切性を図っている。編入学については、音楽学科で定員を設定しており、学生募集に努めている。

ただし、2021（令和3）年度は、志願者減と残留率低下の影響により入学定員充足率が急落している学科があり、入学者・非入学者・非出願者の調査・分析を行い、志願者の確保のための対策を計画しているものの、2022（令和4）年度の入学者数は前年度から更に減少しているため、留意されたい。

大学院については、文学研究科博士前期課程及び同研究科博士後期課程において収容定員充足率が低いため、改善が求められる。特に、収容定員充足率の低い文学研究科英文学専攻では、2020（令和2）年度より、博士前期課程の英文学専攻科目早期履修制度を設け、修了に必要な単位認定をしている。また、博士後期課程全体の収容定員充足率は低く、退学者対策として、2020（令和2）年度に再入学制度の整備を行っている。2021（令和3）年度以降は、社会人の入学希望者に対応する入学制度やカリキュラムの充実、入学試験の広報等を検討し、海外からの入学者確保や社会人向けリカレントプログラムとして「英語教員リスキルプログラム」の導入を検討している。今後も、具体的な対策及び現状の改善に向けた取り組みについて検討し、学生の確保及び適切な定員管理に向けた改善が望まれる。

④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生の受け入れの適切性については、各学部・学科・研究科、委員会が点検・評価を行い、それに基づく改善を行っている。これまでに、学生の受け入れ方針については、学部・学科・研究科の教授会、「研究科委員会」で改定し、「学務委員会」で審議・決定している。また、必要に応じて、「大学企画評価会議」に報告し、意見交換を行っている。

点検・評価の結果に基づき、英文学科では、入学試験における民間英語検定試験利用の導入や入学試験別の定員の見直し、高等学校生向けSNSを活用した情報発信に取り組んでいる。また、2023（令和5）年度の入学試験より、全学部・学科で総合型選抜を導入し、特に、英文学科及び環境・バイオサイエンス学科では出願条件を緩和するなど、入学定員充足のための対応を行っている。音楽学科では、2019（令和元）年度の入学試験から器楽専攻において、新たに管楽器の募集を開始し、入学定員に対する入学者数の平均比率を回復したが、その後は定員を充足できていないため、更なる改善につなげることが望まれる。

以上のことから、学生の受け入れの適切性について点検・評価を行いながら、学生募集や入学者選抜の更なる改善・向上につなげることが期待される。

<提言>

改善課題

- 1) 過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均について、人間科学部心理・行動科学科では1.20と高く、音楽学部音楽学科では0.88と低い。また、収容定員に対する在籍学生数比率について、音楽学部音楽学科が0.83、大学院では、文学研究科が博士前期課程、博士後期課程いずれにおいても0.17と低い。学部及び大学院の定員管理を徹底するよう、改善が求められる。

6 教員・教員組織

<概評>

① 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

「求める教員像」については、「キリスト教主義」「国際理解の精神」「リベラルアーツ教育」の教育方針に賛同し、教育者・研究者にふさわしい高い倫理観と専門分野における高度な研究能力・実践能力・教育力をもって、教育研究活動に取り組み、自らの学識と能力を社会に還元し、また組織の構成員として学院・大学の発展のために貢献する教員としている。また、ミッションステートメントを目指すべき

教員像として示している。

教員組織の編制については、「文部科学省大学設置基準・大学院設置基準にのっとり、適正な人員を配置するとともに、建学の精神の継承と、年齢構成・国際性・ジェンダーバランスに配慮して、教員組織を編成する」としている。専任教員の募集、採用、昇任等にあたっては、人事規程に則り、適切な手続に沿って公正な審査を行うことを方針として示している。また、教員資格については「神戸女学院大学教員資格審査規程」で、各学科、研究科における分野構成については学則で定め、明文化している。

ただし、上記の編制方針は建学の精神や多様性への配慮を示すにとどまっているため、各学部・研究科の目的に合わせた教育課程を支えるための教員組織を編制する方針の具体的な策定を検討することが望まれる。

これらの求める教員像や教員組織の編制方針については、ホームページで公表している。

② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

全ての学部・学科・研究科・専攻において、大学及び大学院設置基準で定める必要専任教員数を満たしている。また、教員1名あたりの学生数にも配慮し、いずれの学部においても、学位課程の目的を果たすに適した教員組織となっている。

さらに、男女比は概ね適正な範囲で配置しており、日本語を母語としない教員も一定数を含んでおり、国際性に配慮した構成になっている。一方で、年齢構成においては若い教員の割合が低く、環境・バイオサイエンス学科では、中高年齢層に偏っているため、年齢構成の適切性を検証することが望まれる。

教員の授業担当負担については、専任教員において基本の担当コマ数を設定し配慮をしている。ただし、大学院の授業時間はコマ数に含まれていないため、大学院の担当の有無により、教員の負担に差異が生じている。

教養教育の「オープン科目」「コア科目」の科目群、「クローバーゼミ」については、専任教員を中心に科目ごとに運営体制を整備している。なかでも、学生の主体的な学びを深めるため、2017（平成 29）年度に開講した領域横断型の「クローバーゼミ」では、「クローバーゼミ実行委員会」において、改善点を協議しつつ運営している。

③ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

教員の募集・採用等は、「神戸女学院大学人事手続規程」に基づいて行っており、募集・採用については、人事計画を各学科、研究科の教授会で検討し、学長に申し出た後に、「大学人事委員会」にて人事計画案を審議し、理事会での承認後、募集、

採用を行うことになっている。

また、専任教員の昇任については、「神戸女学院大学教員資格審査規程」に基づいて学科等で審議し、その後、「大学人事教授会」に上程する手続となっている。さらに、採用又は昇任については、「大学人事教授会」で投票によって議決し、学長は「学院常務委員会」の議を経て、理事会に推薦することになっている。

専任教員を大学院担当科目教員に任用・委嘱する場合は、各研究科の専攻会合で協議をした後、「研究科委員会」で審議を行い、「大学院委員会」で承認している。

以上のことから、教員の募集、採用、昇任において、手続及び審査体制を整備し、適切に行っている。

④ **ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。**

「神戸女学院大学スタッフ・ディベロップメント（SD）およびファカルティ・ディベロップメント（FD）実施に関する基本方針」を定め、FD活動を組織的に実施している。

全学的なFD活動としては、「教授会研修会」のほか、FD関連情報の発信、学外FD研修会等への参加費用補助等を実施している。また、教員組織単位でのFD研修の開催を義務づけ、組織の取り組みを促進している。しかし、FD研修については教育活動に関する内容が中心となっている。全教員を対象とした研究倫理・コンプライアンス教育の研修は実施しているが、研究活動や社会貢献活動等の資質向上を意図した研修については、外部機関等によるセミナーの紹介にとどまっているため、積極的に行うことが望まれる。

教員の教育活動については、毎学期の「授業評価アンケート」において、各授業に対する学生の評価を調査・集約し、アンケート結果は教員に伝え、必ず授業内において教員が学生に対してフィードバックしている。大学院においては、大学院の授業全体に関する「院生による大学院・大学院開講科目評価アンケート」を行っている。「授業評価アンケート」において高く評価された教員を「学生が選んだベストティーチャー」として毎年発表し、ベストティーチャーによる授業をオンデマンド形式で学内公開している。また、教職員の相互評価のため、毎学期授業公開期間を設けて授業の視察を促している。ただし、これについては参加率が低いいため、参加率の増加に向けて取り組むことが期待される。

教員の研究活動・教育活動・社会活動に関しては、「教員活動評価報告書」を所属長が点検し、フィードバックを行っている。専任教員の教育・研究業績はFDセンターのホームページで公表しているが、その結果の活用については、教員個人に委ねており、大学全体で共有することを今後の検討課題と認識している。

以上のことから、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげるため、教

育活動以外の研究活動や社会貢献活動等に関するFD活動に積極的に取り組むことが望まれる。

⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

教員組織の適切性については、「大学人事委員会」や各学科教授会で点検・評価を行っている。教員の採用、昇任審査においては、人事計画を策定し、候補者の専門性や教育能力、適格性についての審査を行っている。具体的には年度初めと新たな人事計画を協議する際には「大学人事委員会」において、教員の人員構成や教員1名あたりの学生数、個人の年齢等を記した資料に基づいた点検・評価を行っている。また、教員組織自体の適切性については、「大学企画評価会議」や「学部長会」で検討し、特に志願者の減少に応じた適切な教員組織については、法人と協議のうえで進めていくことになっている。

一方で、「大学企画評価会議」による点検・評価に基づく具体的な改善と向上に向けた取り組みについては、長らく組織の新設や改組を行っていなかったため、これまで積極的に行っていなかった。2024（令和6）年度に国際学部及び心理学部の新設を構想しており、これに伴い、現在の教員組織の見直しが必要となっているため、内部質保証体制のもとで大学の改組等の計画に伴う教員組織の適切性について検証していくことが望まれる。

7 学生支援

<概評>

① 学生が学習に専念し、安定した学生生活を送ることができるよう、学生支援に関する大学としての方針を明示しているか。

「学生支援に関する方針」に、「修学支援」「生活支援」「キャリア支援」の3つの項目を設け、学生一人ひとりが安定した学生生活を送り、学習に専念できるよう、支援体制や仕組み等の充実・向上に資する方針を掲げている。

具体的には、「修学支援」の項目において、「奨学金制度を適切に運用し、経済的に安定した学修環境を保障する」と示すなど適切に方針を策定している。これらの方針は、ホームページにおいて社会及び関係者等へ公表している。

② 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。

学生支援に関する方針のもと、「学生支援ネットワーク」と称する部署間を横断した連携組織により、学生支援の継続性や安定性の維持に努め、学生支援全般にわたる情報共有と対応の検討を円滑に進めるべく体制を整えている。また、「神戸女

学院大学学生主事会規程」に基づき、「学生主事会」が学生の学籍異動、学生支援に係る審議を取り扱うこととなっており、学生部長、学生副部長のほか、チャプレン職のうちから1名選出し、更に各学科選出の委員を中心に編成している。また、成績不振学生に対する面談にとどまらず、「学生生活支援センター」のもと、教員に対して「欠席の多い学生の調査」を行い、退学予防に向けて情報把握に努めるなど、きめ細かい支援体制を構築している。

新型コロナウイルス感染症拡大の環境下における修学支援について、学生の感染状況や近隣の地域等の情報を速やかに把握し、学生や保護者に対して、感染対策や経済的な修学支援の方法等を適切に周知対応しており、学生支援に関わる方針に則した取り組みとして評価できる。

学生の要望に対応する仕組みとして、「大学自己評価委員会」が、意見箱（クローバーボックス）、ウェブ意見箱を設けており、学生の要望をいつでも受け付け、学生支援環境の改善につなげていることは評価できる。また、「学生生活実態調査」を毎年実施し、学生支援に関わる改善点を把握するとともに、学生支援アドバイザー、又はゼミ担当教員による連絡や面談を適宜実施することで、学生一人ひとりに応じた指導や支援を実施しており、「学生支援ネットワーク」のもと、組織全体として、各教職員が学生を支える体制を構築している。

ボランティア活動について、ミッションステートメントに基づく活動のために、「ボランティア・サポート委員会」等が「大学学生自治会」と協同して推進しているものの、学生アンケートの結果からは、ボランティア活動参加に対する意識が低いことが明らかとなっている。活動内容の広報のみならず、大学の目的等に即して、既に取り組んでいる学生生活活動等の正課プログラムの展開・充実と併せて、活動を通じた学生のボランティア精神の涵養に向けて取り組むことが望まれる。

奨学金やその他経済的支援については、大学独自の奨学金制度を十分に整備しているほか、留学奨学金も適切に設けている。

学生の進路支援については、「キャリアセンター」を中心として、適切に取り組んでいる。具体的には、教職協働により各種ガイダンスやセミナーを実施し、学年ごとの状況に応じたキャリアサポートプログラムを行うなど、有益な情報提供と支援を行っている。一方で、卒業生・修了生アンケートの実績では、就職サポート満足度が高いという回答が2020（令和2）年度には低下している。このことから、キャリアサポートプログラムの参加者の増加も見受けられるものの、低調にならないために改善策を講じる必要がある。学生の満足度等を把握するとともに、社会の状況変化に対応できるよう多面的なデータ取得を行うなど、柔軟性ある方針とその対応につながる情報取得に努めることが望ましい。

さらに、障がいによる合理的配慮の対応に資するため、「学生生活支援センター」のもとに「障がい学生支援室」を設置し、障がいや疾患をもつ学生だけでなく、大

学生生活に問題を抱える学生のほか、保護者からの相談を受け付けている。また、「長期目標・計画（2021-2030年度）」にキャンパス内のバリアフリー化の推進を掲げ、スロープやエレベーターの設置に取り組んでいるため、支援内容に関する要望等に係る対応組織の設置と併せて、キャンパス内のバリアフリー化の進展が期待される。

博士課程における学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定等については、大学院学生のキャリアパスを形成する一環として、ティーチング・アシスタント（以下「TA」という。）制度を活用し、学部の授業サポートを通じて大学教員を目指す学生の資質等を修得することとしている。今後、必要に応じた大学院学生への研修について検討することが望まれる。

③ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

学生支援の適切性の点検・評価については、「大学企画評価会議」「学生主事会」「学生支援ネットワーク」「自己評価委員会」「学部長会」「障がい学生支援委員会」等さまざまな会議体により検証している。点検・評価のみならず、各組織で発生した課題については、随時「大学企画評価会議」で情報を共有することで各組織が改善策を検討・実行し、その結果を再度同会議で報告し、大学として各学部等の状況を把握している。

学生主事については、「神戸女学院大学学生主事会規程」等に基づき、学生の学籍異動や学生支援に係る状況を教授会に報告しているが、学生主事の業務範囲は多岐にわたっている。学生主事の業務については、『学生主事会引継事項』で共有し、学生対応マニュアルとして機能している。また、月1回の定例会議にて、教職員間で情報を共有しており、さまざまな課題に対応している。これら学生支援の業務状況、運営等について、「大学企画評価会議」は、教員の業務負担や学生対応の適切性に係る把握や提言を行っており、その結果、会議出席等の負担軽減や運営体制の改善を図るなど、全学的な統括組織としての役割を果たしている。さらに、学生支援に関わる意思決定等の役割については、「学生生活支援センター」や「障がい学生支援委員会」が担っており、必要に応じて、「大学企画評価会議」や「学務委員会」、教授会等で合意形成を図るよう努めている。

8 教育研究等環境

<概評>

① 学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を明示しているか。

大学の目的に沿った教育研究活動を遂行するために、校地や校舎、講義室や実

習・実験室、教育研究機器・備品等の整備・維持・管理に関する基本方針を定め、ホームページの「基本方針」のページで公開している。具体的には、「キリスト教主義、国際理解の精神、リベラル・アーツ&サイエンス教育、そして少人数教育という理念・目標に沿った教育研究を遂行するため、必要な校地や校舎を整備するとともに、適切な数・規模の講義室、演習室、実習・実験室等を設置し、高度情報化に対応するための教育研究機器・備品等の充実を図り、維持・管理する」と定めている。

また、第1期「長期目標・計画（2012. 4～2022. 3）」に基づいて、キャンパスのバリアフリー化の推進や「障がい学生支援室」の設置を実施している。第2期「長期目標・計画（2021-2030 年度）」では、学生の自主的な学びの推進や教育のIT化への対応を掲げている。

以上のことから、学生の学習や教員による教育研究活動に関して、環境や条件を整備するための方針を適切に明示している。

② 教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地及び校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設及び設備を整備しているか。

校地・校舎、運動場等の施設・設備に関しては、大学及び大学院設置基準上必要な面積を上回る校地を有し、十分な校舎や設備を整備している。「教育研究等環境の整備に関する方針」の中の高度情報化に対応するための教育研究機器・備品等の充実として、IT環境の整備に取り組んでおり、「情報処理センター」の管轄のもと、ICT機器の整備や、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、遠隔授業を行うため、学習管理システム(LMS)やウェブ会議システムを導入している。また、これらを活用するためのマニュアルを整備し、教員や学生への支援を行っている。さらに、学生の自主的な学びを促すため、2018(平成30)年度には文学部の建物を改修し、プレゼンテーションやグループワークに適した環境を整えると、第2期「長期目標・計画(2021-2030年度)」に沿って、教育のIT化や学生の自主的な学びを推進している。

なお、第1期「長期目標・計画(2012. 4～2022. 3)」に従って、バリアフリー化を進めており、文化財を保有したキャンパスは、卒業生アンケートにおいて満足度の高い環境整備につながっている。

③ 図書館、学術情報サービスを提供するための体制を備えているか。また、それらは適切に機能しているか。

図書館は多数の図書を所蔵し、CD-ROMやオンラインデータベースなど最新情報を充実させて、学習・教育・研究支援のための各種サービスを提供している。他大学図書館等が所属している資料の相互利用も整備しているほか、学術研究成

果を発信・公開する機関リポジトリも設置している。

図書館には無線LANを整備し、貸し出し用パソコンを多数設置するなど、学術情報へのアクセスを可能にしている。図書館の新館にはラーニングコモンズを設置しており、学生の自主的な学びを支援している。また、図書館職員は専任職員、派遣職員等を配置し、学生向けの各種図書館ガイダンスを実施している。さらに、平日には大学院学生によるライティング・サポートを行っている。

以上のことから、図書館や学術情報サービスを提供するための体制を備えており、適切に機能していると評価できる。

④ 教育研究活動を支援する環境や条件を適切に整備し、教育研究活動の促進を図っているか。

「神戸女学院大学研究活動に関する行動規範」を2015（平成27）年に制定し、研究を通じて人類や社会への貢献を行うとする大学の目的に沿った研究に対する基本的考え方を明示している。

専任教員には研究費を支給しており、教員所属学科で配分する個人研究費のほか、研究所が研究所員へ提供する出版助成や研究助成等の各種助成を設けている。さらに、各学科、研究科においても出版助成制度を設けている。

外部資金の獲得に向けて、研究所が公的研究費等の申請・その他手続に関する業務を行い、研究所員をサポートしている。しかし、組織的に外部競争的資金を獲得する取り組みを徹底してきたとはいえない状況にあった。その状況を改善すべく、2022（令和4）年度には、科学技術研究費助成事業への申請に関する説明会の開催や、参考資料を閲覧できるようにするといった取り組みを開始しているため、今後の成果に期待したい。

研究室を全専任教員に割り当て、週1日を在宅研究日として、研究活動を推進している。海外研究や特別研究の制度もある。また、近年、研究所の職員が知的財産管理技能士の資格を取得しており、今後は特許の取得等に向けたサポートを行うとしている。

TAについては、「神戸女学院大学ティーチング・アシスタント規程」に基づいて、大学院学生等の教育力を高める機会を提供するとともに、大学及び大学院における研究の充実を図っている。

以上のことから、研究教育活動を支援する環境や条件を概ね適切に整備しており、教育研究活動の促進を図る一方で、外部資金獲得を組織的に促進する体制づくりを今後も進めていくことが期待される。

⑤ 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

「神戸女学院大学研究活動に関する行動規範」において、日本学術会議が提案す

る「科学者の行動規範」に準拠し、研究者の責務、研究の公平性、法令の遵守等を示している。さらに、人を直接の対象とした研究及びその他倫理的配慮が必要な研究については、2016（平成28）年に定めた「神戸女学院大学研究倫理規程」において、「研究倫理委員会」の設置や審査の手續等を明示している。

研究費の不正利用防止の取り組みとして、「神戸女学院大学における研究費の使用に関する行動規範」及び「神戸女学院大学公的研究費管理規程」を定めている。その他、「神戸女学院大学研究活動不正行為対応規程」において、不正行為の防止及び不正行為が生じた場合の対応について必要な事項を定めている。また、研究資料等の適切な保存については「神戸女学院大学研究資料等保存規程」を定めるとともに、研究費や研究活動に関する不正の通報窓口も法人内部監査室に設けており、電話、電子メール及び書面による通報を受け付けている。

研究倫理確立のための機会の提供については、教員向けには2017（平成29）年度より年1回、全専任教員を対象にコンプライアンス研修会を実施している。学生向けには、新年時開始時の登録ガイダンスにおいて、教務課より「引用と盗用、剽窃について」の注意を行っている。また、全ての1年次生が履修する「クローバーゼミ」において、動画を用いた研究倫理教育を実施し、周知に努めている。さらに学科単位でも教員が学生に注意喚起を行っている。例えば、人を対象にした研究を行う人間科学部心理・行動科学科では、ゼミを通じて3、4年次生に研究倫理の重要性とその遵守について説明している。人間科学部環境・バイオサイエンス学科と人間科学研究科では、必修の講義内で倫理教育を行っている。大学院学生に向けては、各研究科の授業で指導を実施している。また、2022（令和4）年度において文学研究科及び人間科学研究科では、外部のeラーニングプログラムに在籍者全員が登録している。

以上のように、研究倫理に関連する規程を適切に定めるとともに、教員や学生に対するコンプライアンス教育も適切に実施している。

⑥ 教育研究等環境の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

研究環境の適切性の点検・評価は、授業評価アンケート及び卒業生アンケートを実施して、その結果をもとに改善している。アンケート結果は各学科で共有し、問題が生じている場合は、それぞれの学科において速やかな教育対応を図り、随時「大学企画評価会議」で情報を共有することで各組織が改善策を検討・実行し、その結果を再度同会議で報告し、大学として各学部等の状況を把握している。

各部署から寄せられた問題に対する対応は「大学企画評価会議」「大学将来計画委員会」で協議し、必要に応じて改善指示等を行うこととしており、例えば、「大学将来計画委員会」で学生の自主的な学びを促すために、新たなラーニングコモン

ズの設置に向けて協議している。

以上のことから、教育研究等環境の適切性について、定期的に点検・評価を行っているといえる。

9 社会連携・社会貢献

<概評>

① 大学の教育研究成果を適切に社会に還元するための社会連携・社会貢献に関する方針を明示しているか。

建学の精神に基づき、地域に開かれた大学として、学生と教職員が学びと研究の成果を社会に還元することを目指し、「地域のステークホルダーとの連携強化」「地域課題の受け入れ」「学内情報の発信と地域へのアウトリーチ」「地域と連携した学生教育の充実」に取り組むことを「地域連携ビジョン（2019～2024年）」に明示している。また、教育の3つの柱のうち、「キリスト教主義」と「国際理解の精神」の具現化として社会連携・社会貢献を教育上重要であると捉えている。

大学及び大学院における学位授与方針に定める養成すべき力や教育課程の編成・実施方針についても、社会連携・社会貢献を念頭に置いて定めている。

これらの基本方針を受け、「中期目標・計画」「神戸女学院大学—これからの道標（2021～2030年度）」において、社会連携・社会貢献の方針を「地域連携・国際連携活動を通し、SDGsに対応できる人材を育成し、全学レベルでSDGsとの関わり方についての共通認識を醸成する」「SDGsを見据えた社会貢献・地域連携の強化」と明示している。

また、各学部・学科・研究科において、上記の大学全体の方針に基づき、社会貢献・社会連携に関する方針を教育課程の編成・実施方針、学位授与方針において明示しており、例えば、文学部総合文化学科の学位授与方針では「社会の一員に相応しい高い倫理意識をもち、より善い社会に向けてはたらく意志と能力を身につけていること」等を示している。なお、社会連携・社会貢献の方針をホームページで公開することによって学内外に共有している。

② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

各学部・学科・研究科がさまざまな社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施している。学外組織との連携については、文学部英文学科では、兵庫県西宮市の小学校での小学校外国語活動支援、大阪の映画イベントでの字幕制作を行っている。音楽学部及び音楽研究科では、産学連携協定を締結した企業が運営する高齢者向け自宅でさまざまな音楽プログラムを実践している。

社会連携・社会貢献活動に関する教育研究では、地域との長年の関係性を生かし

て社会的要請に基づくさまざまな取り組みを行っている。特に、人間科学部を中心とした「地域創りリーダー養成プログラム」では、地域で活躍しているゲスト講師による講義を通じて地域の課題や取り組みを理解し、組織づくりに関する知識やプレゼンテーション力を身につけ、地域社会のリーダーとして必要な資質を養成することを目的としており、実際に地域社会住民を対象としたイベントを企画、実施することで地域の活性化に貢献している。具体的には、農地で野菜を栽培し、地域の子どもたちに向けて収穫イベントや食育に組み込み、これらの活動に他学部・学科の学生も参加し、参加学生の自主性、行動力の修得につながっており、建学の精神に基づく「地域連携ビジョン（2019年～2024年）」に沿った取り組みとして高く評価できる。

音楽学部音楽学科では「音楽によるアウトリーチ」活動を2001（平成13）年度から継続して行っており、小中学校や病院等に学生が出向いて演奏活動を行うとともに、年3回、地域住民を学内に招いてコンサートを開催している。

「地域交流、国際交流事業への参加」では、文学部総合文化学科の「プロジェクト科目」において、提携又は協定を結んでいる海外大学の学生に対して日本文化を教える試みを行っている。音楽学部音楽学科は協定校であるモーツァルテウム音楽大学（オーストリア）との間で教員と学生による国際交流を行っている。人間科学部環境・バイオサイエンス学科は近隣の小学生を対象としての「こどもサイエンス体験教室」や「子ども科学大学」、高校生を対象とした「サイエンス体験」、中学校・高等学校の理科教員を対象にした「高等学校教員対象実験講座」を毎年実施している。また、「国際交流センター」では、長期受け入れ留学生を対象に、西宮市の児童・生徒との交流事業を定期的に実施している。

なお、全学的に取り組んでいる社会連携・社会貢献活動は、毎年度末に開催する「地域連携推進委員会」「国際化推進委員会」において活動内容を共有し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止と活動の両立について検討している。

③ **社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。**

社会連携・社会貢献の適切性についての点検・評価は、「大学企画評価会議」の下部組織である「地域連携推進委員会」「国際化推進委員会」が行っている。適切に全学の状況の点検・評価を行うために、学期ごとに行っており、各プログラムの状況を把握し、必要に応じて改善策を検討するなどの協議を行っている。また、その点検・評価の結果をもとに、全学的な方針との関連を協議する必要がある案件等については「大学企画評価会議」に報告を行っている。

<提言>

長所

- 1) 人間科学部を中心とする「地域創りリーダー養成プログラム」において、地域社会のリーダーとして必要な資質を養成することを目的として、地域住民を対象としたイベントを企画・実施することで地域の活性化に貢献している。具体的には、農地で野菜を栽培し、地域の子どもたちに向けて収穫イベントや食育に取り組み、これらの活動に他学部・学科の学生も参加し、参加学生の自主性、行動力の修得につながっており、建学の精神に基づく「地域連携ビジョン（2019年～2024年）」に沿った取り組みとして評価できる。

10 大学運営・財務

(1) 大学運営

<概評>

- ① 大学の理念・目的、大学の将来を見据えた中・長期の計画等を実現するために必要な大学運営に関する大学としての方針を明示しているか。

大学の目的を具体化するものとして、2021（令和3）年度から2030（令和12）年度にわたる「長期目標・計画」、2021（令和3）年度から2025（令和7）年度にわたる「中期目標・計画」を策定している。この策定にあたっては、内部質保証推進組織である「大学企画評価会議」のほか、「学務委員会」、教授会等で協議しており、学内構成員へ協議を通じて理解を促している。また、これらの大学の目標・計画は、ホームページにて公開している。

なお、大学ガバナンスの中期目標として、「学長を中心とした組織部署の適切性の検証をし、大学全体のガバナンスのあり方を持続的に検証する」と掲げており、現在、副学長の権限の見直しについて検討を開始していることから、今後の実現が期待される。また、入学者数の減少に係る対応を優先していることから、大学運営に係る具体化に向けた検討が遅れている状況があるものの、今後の学部設置等に係るアカデミックプランの推進を通じて、柔軟性ある組織運営に向けた検討を引き続き行うことが望まれる。

- ② 方針に基づき、学長をはじめとする所要の職を置き、教授会等の組織を設け、これらの権限等を明示しているか。また、それに基づいた適切な大学運営を行っているか。

学長の選考については、「神戸女学院大学学長選考規程」「神戸女学院大学学長の選挙に関する取決め」に従い学長を選考し、その選考結果を教授会及び理事会、評議員会の順に報告又は意見を聴き、最終的に理事会の審議により決定しており、学長選考決定にあたり選考過程の適切性を担保している。

また、教授会については、学則に基づき、教授会、学部教授会、学科教授会を設

置しており、それぞれの教授会の規程を整備し、その役割と権限を明確にしている。

学長が議長を務めるものとして、教授会を設置しているほか、学長の諮問機関として学部長会を置いており、取り扱う議題の性質によって、諸規程に基づき学部教授会への審議を諮るなど、適切な運営を行っている。

③ 予算編成及び予算執行を適切に行っているか。

予算編成については、「経理規程」等に基づき、法人のもと、予算編成方針を決定し、それに基づき大学を含めた各部署の責任者に対して予算編成方針を説明のうえ、予算計画の立案を行っている。その後、経理課及び大学事務長による各部署への予算ヒアリングを経て、「大学予算委員会」の審議、「学院予算委員会」の意見を聴取したうえで、「学院常務委員会」「財務委員会」及び理事会に諮り、予算案を確定しており、必要な検討過程を整備している。

予算執行については、執行金額規模に応じた決裁権限を設けており、都度稟議等により決裁を受ける仕組みを講じている。また、予算執行管理として、「予算執行見込書」の提出を各部署に求め、執行状況の把握に努めている。

一方、予算執行の効果検証については、今後、学院本部の企画部門において行うこととしており、「中期目標・計画」や学部設置等のアカデミックプランのなかで、検証結果が生かされるよう、今後の対応が望まれる。なお、一部の学部・学科で入学定員の定員未充足が生じており、現状では教育研究費の削減は行っていないものの、人件費の一部削減がなされている。今後の改革のなかで、計画そのものの見直しに加え、予算策定方法や運用に係る制度等の見直しに取り組み、予算編成、執行等の運営において、教学と法人の双方で適切な管理・運営が望まれる。

④ 法人及び大学の運営に関する業務、教育研究活動の支援、その他大学運営に必要な事務組織を設けているか。また、その事務組織は適切に機能しているか。

大学運営に係る事務組織については、「事務分掌規程」に規定している。また、職員の採用・異動等については、「学校法人神戸女学院教職員就業規則」に基づき、総務課のもとで人事計画を策定し、運営している。

事務組織の人員配置については、人数配置の基準を設け、人事計画に応じて採用を行っているが、昨今の業務内容の多様化に鑑み、総合職専任職員に加え、一般職専任職員、専門職専任職員の制度を設け、業務の性質に応じた柔軟性のある人事制度を構築している。

また、「事務職・教学職の資格制及び職階制の運用規程」に基づき、事務職員の処遇改善に取り組み、人事考課として、「目標達成度評価」を採り入れ、評価結果をもとに事務職員の昇任・昇格審査の参考として扱い、職場の活性化、職員の成長

に資するよう取り組んでいる。

⑤ 大学運営を適切かつ効果的に行うために、事務職員及び教員の意欲及び資質の向上を図るための方策を講じているか。

スタッフ・ディベロップメント（以下「SD」という。）については、新任管理職研修等の定期的な研修会のほか、「学院リトリート」と呼ばれるキリスト教に関する研修を通じ、建学の精神及びキリスト教主義に基づいた教育への理解を得るよう努めている。

また、「神戸女学院大学スタッフ・ディベロップメント（SD）およびファカルティ・ディベロップメント（FD）実施に関する基本方針」を策定し、FDやSDの定義を明確化し、研修等に関する方針を明確にしている。一方、教職員向けの研修を各年度で実施しているものの、体系性をもった研修制度には至っておらず、今後の課題として認識している。大学や法人運営に係る事務職員の人材育成において、大学の基本方針や「中期目標・計画」の目的に照らして、一層の発展が期待される。

⑥ 大学運営の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

大学運営の適切性の点検・評価は、大学及び大学院の「自己評価委員会」、各種委員会や各部署で点検・評価を行い、その結果を「大学企画評価会議」で協議し、改善・向上に取り組んでいる。また、「外部評価委員会」による点検を経て、全学的な点検・評価の結果を公表している。

点検・評価の結果に基づく改善については、各組織で改善に取り組み、「大学企画評価会議」に随時報告することで、大学として各学部等の状況を把握するとともに、教員間で情報を共有している。また、教職協働の実質化に向けて、職員の委員会委員としての参画を進め、学内全体の風土改革の醸成を図っている。業務の円滑化、効率化と併せて、学内構成員の積極的な関与により、今後の改革の推進が期待される。

また、「大学として推進すべき業務の優先順位付けとそれに対応した人材の育成、確保の仕組みを検討し、改善していく必要がある」ことを問題点として挙げている。大学運営のさまざまな業務のなかで、専門的な職能のある人材の登用や人員不足といった課題を整理しながら、実務に関するスキルやITスキルを高めることが望ましい。また、これらの検討のなかで、「大学企画評価会議」等の内部質保証推進組織が適切に機能することが望まれる。

くわえて、定員未充足への対応として、2024（令和6）年に国際学部及び心理学部を新設することに伴い5学部・3研究科を有する大学へと体制が変わるため、規

模が拡大した大学の運営に向けて適宜検証を行うことが望まれる。

監査については、監事による監査及び監査法人による会計監査に加え、「学校法人神戸女学院内部監査規程」に基づき、理事長直轄の「内部監査室」において経営の目標の効果的な達成に役立つことを目的とした法人業務の遂行状況を検討・評価している。監査法人、監事及び「内部監査室」が会合する機会を設けて情報交換を行うなど、三者の連携を図っている。

(2) 財務

<概評>

① 教育研究活動を安定して遂行するため、中・長期の財政計画を適切に策定しているか。

これまでの長期計画の検証・総括を踏まえ、2016（平成28）年度から2020（令和2）年度までの5年間の「中期目標・計画」を策定し、将来を見据えた財政計画の策定などに取り組んできた。その後、新たに「長期目標・計画（2021-2030年度）」及び「中期目標・計画（2021-2025年度）」を策定している。

また、法人としての5年間の「中期目標・計画」に基づき教育研究活動を安定的に遂行するために、中期計画期間における収支見通しを策定している。なお、2021（令和3）年度に入学者数が大幅に減少したことを受け、2021（令和3）年度から2028（令和10）年度の中期収支見通しを作成している。見通しでは、入学者数は回復することを前提としており、2027（令和9）年度には経常収支差額のマイナスはプラスに転換する見込みとなっているものの、2022（令和4）年度の入学者数は前年度から更に減少している。入学者数の減少は収入への影響が大きいいため、具体的な学生数の管理を含む財政計画を適切に策定することが望まれる。

② 教育研究活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立しているか。

財務関係比率については、「文他複数学部を設置する私立大学」の平均と比べ、法人全体、大学部門ともに人件費比率は高く、教育研究経費比率は低くなっている。また、事業活動収支差額は法人全体、大学部門ともに2020（令和2）年度以降マイナスが続いており、事業活動収支差額比率は経年的に同平均より低くなっている。一方、「要積立額に対する金融資産の充足率」は、2019（令和元）年度以降は減少が見られるものの、一定の水準を維持していることから、教育研究活動を安定して遂行するために十分な財務基盤を確立しているといえる。

外部資金については、「神戸女学院大学研究所」が公的研究費等の申請・その他手続に関することの業務を行っているものの、全般的に学内研究費の利用が中心となっており、科学研究費補助金の獲得金額も減少傾向にある。大学自らが組織的

に外部競争的資金を獲得する取り組みを徹底できておらず、それに向けた体制づくりを課題としているため、今後は積極的な外部資金獲得に向けた仕組みを構築することが求められる。

以 上

神戸女学院大学提出資料一覧

点検・評価報告書
評定一覧表
大学基礎データ
基礎要件確認シート
大学を紹介するパンフレット

その他の根拠資料	資料の名称
1 理念・目的	学校法人神戸女学院寄附行為
	神戸女学院大学学則
	神戸女学院大学大学院学則
	ミッションステートメントと3つのポリシー (大学)
	文学部ポリシー
	音楽学部ポリシー
	人間科学部ポリシー
	英文学科ポリシー
	総合文化学科ポリシー
	音楽学科ポリシー
	心理・行動科学科ポリシー
	環境・バイオサイエンス学科ポリシー
	ミッションステートメントと3つのポリシー (大学院)
	文学研究科ポリシー
	音楽研究科ポリシー
	人間科学研究科ポリシー
	永久標語「愛神愛隣」
	神戸女学院大学学修便覧／開講科目表 (2021年度)
	大学案内「COLLEGE GUIDE 2022」
	学報
	大学広報誌「Vistas」
	教授会議事録(2012年4月)(抜粋)
	臨時教授会議事録(2016年3月)(抜粋)および資料
	長期目標・計画(2021-2030年度)
	中期目標・計画(2021-2025年度)
	文学部英文学科パンフレット
	文学部総合文化学科パンフレット(2022)
	音楽学部パンフレット(2022)
	人間科学部心理・行動科学科パンフレット(「My Way」vol.2)
	人間科学部環境・バイオサイエンス学科パンフレット(「My Way」vol.2)
人間科学研究科パンフレット(2022)	
2 内部質保証	神戸女学院大学内部質保証規程
	神戸女学院大学自己点検・評価規程
	神戸女学院大学大学院自己点検・評価規程
	内部質保証体制図
	神戸女学院大学外部評価委員会規程
	活動計画評価報告書:(A表)年度別活動評価報告書,(B表)評価項目別点検評価報告書 サンプル
	基本方針
	アセスメント・プラン
	2021年度大学各委員会構成員
	事務分掌規程
	教育の伝統-三つの柱
	神戸女学院大学の教育目標:本学で育む7つの力
	学務委員会議事録(2021年2月)(抜粋)および資料

2 内部質保証	ポリシー・学則
	大学院委員会議事録(2021年2月)(抜粋)および資料
	大学企画評価会議事録(2020年11月)(抜粋)
	中期目標・計画報告書 サンプル
	授業評価アンケート
	遠隔授業に関するアンケート(2020年度前期)
	遠隔・対面授業に関するアンケート(2020年度後期)
	第15回ベストティーチャー
	入学生/卒業生・修了生アンケート集計結果
	教員活動評価 神戸女学院大学専任教員 教育・研究業績報告集
	教授会研修会
	大学企画評価会議事録(2020, 2019, 2018年度 各12月, 1月)(抜粋)
	改善報告書
	改善報告書検討結果
	大学院委員会議事録(2020年9月)(抜粋)および資料
	大学院委員会議事録(2020年12月)(抜粋)および資料
	数字で見る神戸女学院
	教育情報の公開
	教職センター
	ニュース一覧
	心理・行動科学科ニュース一覧
	2021年度新型コロナウイルス感染症関連情報
	2020年度新型コロナウイルス感染症関連情報
	内部質保証
	自己点検評価報告
	学校法人神戸女学院 財務状況
	活動計画評価報告書
	大学企画評価会議事録(2017年10月)(抜粋)
	大学・大学院自己評価委員会議事録(2017年11月)(抜粋)
	AB表の運用(新システムにおける点検評価の概要)
	2018年度自己点検・評価活動計画評価報告書記入要領説明会資料
2021年度実施自己点検・評価活動計画評価報告書記入要領説明会日程	
2020年度大学教授会研修会「2020年度 前期授業遠隔化を振り返る」(Moodle画面)	
神戸女学院大学ーこれからの道標(2020年度)	
3 教育研究組織	事務組織規程別表：学校法人神戸女学院事務組織図
	「神戸女学院百年史 総説」pp. 299-301
	神戸女学院大学共通英語教育研究センター規程
	基礎教養を身につける学び
	神戸女学院大学研究所規程
	神戸女学院大学女性学インスティテュート規程
	宗教センター
	神戸女学院大学国際交流センター規程
	神戸女学院大学教職センター規程
	キャリアセンター
	神戸女学院大学情報処理センター規程
	視聴覚センター
	全学部2年生対象 IP-TOEIC オンライン結果報告
	キャリアセンター：就職関連データ
	4 教育課程・学習成果
2021年英文学科「My Portfolio」p.9	
2021年度 神戸女学院大学 大学院文学研究科ハンドブック	
大学院委員会議事録(2020年9月, 12月)(抜粋)	
学修便覧(1948年, 1949年)(抜粋)	
カリキュラム・ツリー	
2019年度「クローバーゼミ(A2クラス)」シラバス	

4 教育課程・学習成果	神戸女学院大学大学院課程修了の認定に関する規程
	共通英語教育センター活動報告書 vol.1
	GE100 COMMUNICATION IN ENGLISH CONVERSATION & DISCUSSION SKILLS COURSEPACK
	神戸女学院大学コア科目・オープン科目カリキュラムツリー
	2021年度「IT基礎演習(Aクラス)」、「IT応用演習(Aクラス)」シラバス
	大学案内「COLLEGE GUIDE 2022」
	ニュース「外国人学生に日本の魅力を伝えるプロジェクト科目を開講」
	カリキュラム・マップ
	「総文でいかに学ぶか 2021 総文 120%活用術」
	Ps100(1)心理学入門ゼミガイダンス
	2021年度「入門ゼミ(Bクラス)」シラバス
	ニュース「大阪女学院高等学校と高大連携に関する協定を締結いたしました。」
	ニュース(英文学科)「高大連携プログラム KCH で模擬授業を実施しました。」
	教務委員会議事録(2021年4月)(抜粋)
	大学企画評価会議議事録(2020年4月,9月,11月,12月)(抜粋)
	神戸女学院大学精神保健福祉士養成課程連絡委員会規程
	シラバス「UNIVERSAL PASSPORT」
	教授会議事録(2021年1月)(抜粋)および資料
	教務委員会議事録(2020年5月)(抜粋)および資料
	学生による授業評価アンケート(質問項目)
	神戸女学院大学について
	学生サポート:アカデミックアドバイザー
	「A Portrait of Kobe College」
	「英語手帳 English Notebook」
	共通英語教育センター活動評価書 vol.2 p.52
	共通英語教育センター活動評価書 vol.2 pp.69-71
	共通英語教育センター活動評価書 vol.2 pp.72-75
	2021年度「Thesis Writing」シラバス
	2021年度「声楽実技I」、「器楽実技II」シラバス
	2021年度「副論文制作I」、「副論文制作II」シラバス
	2021年度人間科学研究科学年暦
	2021年度「クローバーゼミ(A1クラス)」、「Communication in English a (BTクラス)」シラバス
	神戸女学院大学学位規程
	音楽研究科修士課程 入学試験要項(2021年度) pp.10-12
	人間科学研究科 博士論文審査手順について
	2021年度「臨床心理学特別研究Ⅱ(Aクラス)」、「臨床心理学特別研究Ⅱ(Bクラス)」、「臨床心理学特別研究Ⅱ(Cクラス)」、「臨床心理学特別研究Ⅱ(Eクラス)」、「健康科学特別研究ⅠⅡ(Bクラス)」、「環境科学特別研究ⅠⅡ(Bクラス)」シラバス
	修士副論文審査基準(音楽研究科)
	学位論文審査基準(人間科学研究科)
	2021年度学修便覧/開講科目表 第2章(2021年度学年暦)
	神戸女学院大学人間科学研究科課程博士論文の提出要件
	2020年度卒業生・修了生アンケート(質問紙)
	IP-TOEIC オンライン受験に関するお知らせ
	2021年度新入生 英語クラス分けテスト「TOEIC&RIPーテスト(オンライン)」の受験について
院生による大学院・大学院開講科目評価アンケート(2020年度)(集計結果)	
大学企画評価会議議事録(2020年10月)(抜粋),学務委員会議事録(2020年11月)(抜粋)	
教授会議事録(2021年1月)(抜粋)および資料	
2021年度授業方針等について【第1報】	
大学企画評価会議議事録(2020年10月)(抜粋)	
英文学科科別教授会議事録(2021年5月)(抜粋)	
共通英語教育センター活動評価書 vol.2 pp.89-91	
2021年度重点項目および計画	
教授会議事録(2021年12月)(抜粋)および資料	
神戸女学院大学大学院文学研究科科目等履修生審査出願要項	
神戸女学院大学大学院文学研究科比較文化学専攻博士学位申請論文に関する内規	
音楽研究科音楽芸術表現専攻修士課程(教育課程)	

4	教育課程・学習成果	音楽研究科音楽芸術表現専攻修士課程(研究指導)
5	学生の受け入れ	学務委員会議事録(2021年4月)(抜粋)および資料
		2022年度(令和4年度)入学試験要項
		入試ガイド2022
		入試委員会議事録(2020年4月)(抜粋)
		入試委員会議事録(2020年6月)(抜粋)
		神戸女学院大学入学者選抜規程
		神戸女学院大学大学院入学に関する規程
		学費
		奨学金・記念賞
		入学試験成績優秀者給与奨学金
		神戸女学院大学入学試験委員会規程
		入試委員会議事録(2021年3月)(抜粋)
		2022年度入試問題作問・点検・印刷日程
		2022年度入学試験関連日程
		入試問題原稿作成要領
		入試問題作成責任者用 入試問題作成ガイドライン
		入試ミス事例集
		入試情報サイト
		臨時入試委員会議事録(2020年6月)(抜粋)
		臨時入試委員会議事録(2020年7月)(抜粋)
		入試委員会議事録(2020年10月)(抜粋)
		入試委員会議事録(2020年7月)(抜粋)
		入試委員会議事録(2021年4月)(抜粋)
		入試委員会議事録(2021年5月)(抜粋)
		音楽学部カリキュラム改定案
		音楽学科模擬授業 Wind Orchestra 受講生募集要項(2019年6月, 2019年12月, 2020年12月オープンキャンパス)
		音楽学科教授会議事録(2021年2月)(抜粋)
		音楽学部ウインドオーケストラ授業体験チラシ(2021年6月オープンキャンパス)
		教授会議事録(2021年2月)(抜粋)
		2021年度活動計画(入学センター)
		「先取り履修」学生向け案内
		神戸女学院大学大学院修士課程、博士前期課程及び後期課程再入学に関する規程
		2021年度 文学研究科 英文学専攻 (A表)年度別点検評価報告書
		2021年度 文学研究科 比較文化学専攻 (A表)年度別点検評価報告書
		2018年度 入試委員会 (A表)年度別点検評価報告書
		2019年度 入試委員会 (A表)年度別点検評価報告書
		2020年度 入試委員会 (A表)年度別点検評価報告書
		2021年度 入試委員会 (A表)年度別点検評価報告書
		2018年度 英文学科 (A表)年度別点検評価報告書
		2019年度 英文学科 (A表)年度別点検評価報告書
2020年度 英文学科 (A表)年度別点検評価報告書		
2021年度 英文学科 (A表)年度別点検評価報告書		
「英語で、新しい世界へ /神戸女学院大学」(YouTube)		
「文学部英文学科」(Instagram)		
2018年度 音楽学科 (A表)年度別点検評価報告書		
2019年度 音楽学科 (A表)年度別点検評価報告書		
2020年度 音楽学科 (A表)年度別点検評価報告書		
6	教員・教員組織	神戸女学院大学教員資格審査規程
		教員構成(2021年5月1日現在)
		神戸女学院大学クローバーゼミ運営委員会規程
		大学広報誌「Vistas」31号

6 教員・教員組織	神戸女学院大学人事手続規程
	神戸女学院大学スタッフ・ディベロップメント(SD)および ファカルティ・ディベロップメント(FD)実施に関する基本方針
	大学・大学院自己評価委員会議事録(2021年2月,4月)(抜粋)
	2020年度FD活動報告(学科・研究科)
	2020年度大学教授会研修会報告
	役職者(2021年度)
7 学生支援	神戸女学院ヘルスサポートセンター規程
	神戸女学院大学カウンセリングルーム規程
	「大学の中長期計画(2012~2022)」(学報No.165)
	「目指す姿」(Kobe College Schedule and Diary p.52)
	学生サポート(相談窓口)
	「配布書類一覧表」(入学ガイダンス・ファイル)
	「新入生学年始行事」(入学ガイダンス・ファイル)
	「学生生活を始めるにあたって」(入学ガイダンス・ファイル)
	「奨学金について」(入学ガイダンス・ファイル)
	「あなたのカウンセリングルーム」(入学ガイダンス・ファイル)
	「2021 神戸女学院大学 国際交流プログラム」(入学ガイダンス・ファイル)
	「国際交流センターからのお知らせ」(入学ガイダンス・ファイル)
	「ハラスメント相談の手引き STOP! HARASSMENT!」(入学ガイダンス・ファイル)
	「神戸女学院大学攻略 BOOK」(キャリアデザインプログラム 13 期生編集)(入学ガイダンス・ファイル)
	「KC Magazine」(抜粋)(キャリアデザインプログラム 13 期生編集)(入学ガイダンス・ファイル)
	「クラブ・同好会紹介」(抜粋)(学生自治会発行)(入学ガイダンス・ファイル)
	「新入生の皆さんへ キャリアセンターからのご大切なお知らせ」(入学ガイダンス・ファイル)
	学校法人神戸女学院危機管理規程
	新型コロナウイルス感染症への対応について(教職員関係)、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための活動基準
	神戸女学院大学学生支援ネットワーク規程
	学内におけるメンタルヘルス危機対応ガイドライン
	神戸女学院大学障がい学生支援室規程
	学生支援ネットワーク定例会議議事録(2021年6月)(抜粋)
	「学生への配慮についてのお願い」(配慮願/Reasonable Accommodation Request)の取り扱いについて
	「学生への配慮についてのお願い」サンプル
	神戸女学院大学学生主事会規程
	学生主事引継事項
	合理的配慮の提供に関する手続きと主事の職務
	新型コロナウイルス感染症拡大防止ガイドライン(フレッシュマンキャンプ)
	2021年度フレッシュマンキャンプについて(開催実績)
	英文学科(コロナ対応):新型コロナウイルス感染症拡大への英文学科の対応
	英文学科(コロナ対応):【みなさんへ】クリスマスメッセージ2020 (YouTube)
	総合文化学科(コロナ対応):学生支援の状況について
	心理・行動科学科(コロナ対応):学生支援関連資料
	文学研究科(コロナ対応):院生宛に送信したコロナ対策関連メール
	人間科学研究科(コロナ対応):2020年度人間科学研究科におけるFD活動報告
	英文学科ゼミ活動経費に関する規程
	英文学科学生の学会及び研修会参加経費(英文学科学生費)補助に関する規程
	総合文化学科「ゼミ活動費」規程
	音楽学科及び音楽研究科学生の海外夏期講習会参加経費補助に関する規程
	文学研究科学生/研究生の学会及び研修会参加経費補助に関する規程
	人間科学研究科学生の研究・研修活動費等の補助に関する取決め
	OSAKA ENGLISH VILLAGE(OEV)の必修参加登録/受講方法について
	ATR CALL BRIX(英語学修eラーニングシステム画面)
	ATR CALL BRIX課題(英語学修eラーニングシステム画面)
	共通英語教育研究センター ランチタイムイベント フライヤー

7 学生支援	TOEIC Special Lecture のご案内
	ライティング・サポート
	ライティング・サポート、ガイダンス・ツアー利用者数
	English Zone
	2020 年度事業報告書
	ニュース「オープン記念コンサートが開催されました(産学連携)」
	大阪アジア映画祭字幕制作説明会チラシ
	Cu329ab Tutorial for Exchange Student(科目表)
	Courses for International Students (「COLLEGE GUIDE」(英語版) pp.14-15)
	Campus Life at Kobe College (「COLLEGE GUIDE」(英語版) pp.16-17)
	受入れ留学生について
	「留学生バディ制度」「KC Friend」の2017 年度～2019 年度の参加人数
	神戸女学院大学私費外国人留学生授業料減免規程
	神戸女学院大学私費外国人留学生授業料減免規程細則
	神戸女学院大学外国人留学生特別奨学金規程
	神戸女学院大学外国人留学生特別奨学金規程細則
	神戸女学院大学大学院外国人留学生特別奨学金規程
	公益社団法人神戸女学院めぐみ会：奨学金
	ようこそ障がい学生支援室へ
	修学支援について
	神戸女学院大学障がい学生支援委員会規程
	障がい者在学生数
	学生主事会議事録(2020 年 11 月, 2021 年 2 月)(抜粋)
	神戸女学院大学災害救助法適用地域出身者対象授業料免除制度規程
	神戸女学院大学入学試験成績優秀者給与奨学金規程
	神戸女学院大学入学試験成績優秀者給与奨学金適用の継続について(ご通知)
	欠席の多い学生の調査について(お願い)(2019 年度後期)
	欠席の多い学生の調査について(お願い)(2021 年度前期)
	学生主事会議事録(2021 年 6 月)(抜粋)
	在籍者数
	教授会議事録(2020 年度 5 月)(抜粋)
	教授会議事録(2020 年度 11 月)(抜粋)
	神戸女学院大学給与奨学金規程
	神戸女学院大学 H A S 給与奨学金規程
	那須姉妹特別奨学金規程
	森本敦子記念奨学金規程
	特別奨学金規程
	神戸女学院大学一般貸与奨学金規程
	神戸女学院大学大学院一般貸与奨学金規程
	神戸女学院一粒の麦給与奨学金規程
	神戸女学院大学大学院特別給与奨学金規程
	「大学報告：コロナ禍で学びを継続させるための取り組み」(学報 No. 191)
	2021 年度奨学金説明(動画)
	2020 年度貸与奨学金の在学採用を希望される方へ
	ニュース「2021 年度入学者限定 神戸女学院大学緊急特別奨学金募集のお知らせ」
	大学企画評価会議議事録(2020 年 6 月)(抜粋)、教授会議事録(2021 年 7 月)(抜粋)
	奨学金の種類と 2020 年度受給者数
カウンセリングルーム(学生相談室)	
カウンセリングルームだより Vol. 41	
カウンセリングルームだより Vol. 49	
神戸女学院大学カウンセリングルーム紀要(第 21 号, 第 23 号)	
神戸女学院ハラスメント防止に関する規程に対するハラスメント防止委員会意見	
2020 年度ハラスメント防止研修会(案内と参加状況)	
2020 年度ハラスメント防止研修会(配付資料)	
神戸女学院保健診療所規程	
大学保健室	
大学保健室(Moodle 画面)	

7 学生支援	大学保健室要対応者推移
	大学保健室利用状況等資料
	大学保健室前掲示コーナー写真
	大学保健室前配布物サンプル1 暑さを乗り切る夏ごはんレシピ
	大学保健室前配布物サンプル2 一人暮らしの方へ
	2021 年度 学年始定期健康診断実施結果
	2019 年度 学内健康診断有所見者提出状況 集計
	新型コロナウイルス感染症対策マニュアル(大学保健室)
	神戸女学院大学学生寮規程
	神戸女学院大学学生寮規程施行細則
	神戸女学院大学学生寮運営委員会規程
	学生寮・下宿紹介
	寮生活の手引き
	学生寮運営委員会日程(2021 年 5 月)
	臨時学務委員会議事録(2020 年 4 月)(抜粋)
	2021 年度前期の学生寮運営方針と新型コロナウイルス感染症対策へのご協力についてのごお願い
	公共場所の消毒の仕方
	学生寮 公共場所および個室の感染防止対策
	学生寮 今後のコロナ対応について
	大学企画評価会議議事録(2020 年 3 月)(抜粋)
	2020 年度キャリアサポートプログラム
	2021 年度キャリアサポートプログラム
	2020 年度業界探求・仕事発見セミナー情報提供メール
	神戸女学院生のための就活入門講座～納得いく就活のために～【2022 卒版】
	神戸女学院大学キャリア教育委員会規程
	2019 年度進路状況報告
	キャリアセンターメールマガジン サンプル
	卒業生・修了生アンケート(全学科)(2016～2020 年度)集計結果
	英文学科特別プロジェクト「人生への戦略」(2018 年度チラシ「人生の選択」)
	英文学科特別プロジェクト「人生への戦略」(2019 年度チラシ「人生の戦略」)
	外資系インターンシップや就職に興味のある英文学科の学生さんへ
	2020 年度「家族臨床心理学」シラバス
	2020 年度「家族臨床心理学」(授業進行表)
	心理相談室からの就職情報提供メール
	2020 年キャリアセンター主催 OG 訪問会情報提供メール
	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室規程
	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室紀要「心理相談研究」(第 19 号)
	理学館別館に関する課題について
	感染予防チェックリスト(心理相談室)
	心理相談室主催 CARE(子どもと大人のきずなを深めるプログラム)セミナーチラシ
	人間科学研究科 ヒューマンサイエンス 執筆・投稿用 倫理基準チェックリスト
	「音の饗宴」vol.14 フライヤー
	音楽学科 演奏会&公開講座スケジュール
	2021 年前期チャペルアワー担当者表
	大同生命イブニングロビーコンサート
	「KCSSES Newsletter」 No. 34
	「The Edgewood Review」 vol. 45
	文学研究科英文学専攻 通訳・翻訳コース E582-1a 通訳実習 2020 年度 On-the-job training (OJT 実地研修報告)
	クラブ・同好会について
	2020 年度予算執行に関わる事前申請書(クラブ室エアコン設置)
奨励賞	
神戸女学院大学における今後の課外活動の取り扱いについて	
課外活動許可申請関係書類	
神戸女学院大学ボランティア・サポート委員会規程	
2019 年度本学学生のボランティア活動に関するアンケート集計結果	
ボランティア	

7 学生支援	「ルンバ」 vol. 29
	ボランティア・フェア資料
	「ルンバ」 vol. 28
	2020 年度大島初枝記念賞(表彰式ポスター)
	2020 年度国内ボランティア奨励賞(表彰式ポスター)
	熊本地震ボランティア活動支援補助金ポスター
	FD センター:クローバーボックス
	「クローバーボックス(大学への意見箱)について」(Kobe College Schedule and Diary p.72)
	2021 年度事業計画(エアコン設置申請)
	クラブ・団体からの要望(課外活動報告書からの抜粋)
	連絡協議会記録(2018 年 10 月)
	2019 年度の環境整備状況
	2020 年度卒業式(プログラム時間配分)
	2020 年度卒業式式次第(一部)
	「院長就任の辞」(学報 No. 99)
	8 教育研究等環境
神戸女学院大学—これからの道標(2021-2030 年度)	
学内 IT 環境について	
Zoom の使用方法(教員版)	
Getting Started - Using the Zoom Web Portal-(Zoom の使用方法 教員英語版)	
Moodle を使ってみる(Moodle 導入マニュアル)	
Summary of Moodle manuals(Moodle 導入マニュアル 英語版・Index)	
遠隔授業に関する Q&A(学生用)	
2019 年度事業報告書	
障がい学生支援	
2018 年度事業報告書	
神戸女学院大学図書館蔵書選書基準	
図書館データベース一覧	
神戸女学院大学機関リポジトリ	
「新入生図書館ガイダンス」「2 年生図書館ガイダンス」(図書館 Moodle 画面)	
図書館利用案内	
神戸女学院大学研究活動に関する行動規範	
神戸女学院大学研究所助成及び補助に関する規程	
神戸女学院大学女性学インスティテュート助成及び補助に関する規程	
神戸女学院大学研究所研究所員の研究室への入室に関する規程	
神戸女学院教職員留学規程	
神戸女学院大学ティーチング・アシスタント規程	
神戸女学院大学研究倫理規程	
神戸女学院大学における研究費の使用に関する行動規範	
神戸女学院大学公的研究費管理規程	
神戸女学院大学研究活動不正行為対応規程	
神戸女学院大学研究資料等保存規程	
公正な研究活動への取り組み	
学内説明会・研修会等:文科省ガイドライン関連研修会	
9 社会連携・社会貢献	
	国際化ビジョン(2019~2024 年)
	2020 年度英文学科地域連携活動状況について(地域連携推進委員会資料)
	第 16 回大阪アジア映画祭 協賛特別上映「竹で稼ぐ男たち」
	神戸女学院大学の通訳・翻訳ボランティア
	ニュース「産学連携協定書の調印式を行いました」
	産官学連携
	共通英語教育研究センター活動報告書 Vol.2 p.76
	精神保健福祉士養成課程専門委員会議事録(2021 年 4 月)(抜粋)および資料
	音楽によるアウトリーチ 2002 年~2020 年度活動歴
	音楽によるアウトリーチ 活動報告

9 社会連携・社会貢献	2020年度「心理実践実習 III」シラバス
	地域創りリーダー養成プログラム
	ニュース(地域創りリーダー養成プログラム)『『野菜で MAKE YOU HAPPY』参加者募集』
	ニュース(地域創りリーダー養成プログラム)「門戸厄神駅周辺のお店紹介チラシ『門戸街歩き食ツアー』を作成しました」
	共通英語教育研究センター活動報告書 Vol.2 pp.95-108
	西宮市市民対象講座「インターカレッジ西宮」(2021年度)
	大学広報誌「Vistas」37号
	ニュース「文学部総合文化学科の『プロジェクト科目』でインド体験学習を実施」
	Kobe College & Mozarteum Friendship Week 2019 フライヤー
	ニュース(人間科学部)「2020年度第2回『ラボ見学ツアー』【予約制】を開催いたします！」
	ニュース(人間科学部)「【コロナウイルス感染拡大を防ぐため、中止いたします！】2019年度第3回『ラボ見学ツアー～理学館体験～』を開催します！」
	国際交流センター「News Letter」(2021 Spring)
	文学研究科委員会議事録(2020年12月)(抜粋)
	地域連携推進委員会記録(2021年3月)
	国際化推進委員会記録(2021年1月)
	山口小学校と留学生の交流事業に寄せられた小学生の感想
	ワイオミング大学オーナープログラム 2019 ホストファミリー アンケート(様式)
	神戸女学院大学地域連携推進委員会規程
	神戸女学院大学国際化推進委員会規程
	学務委員会日程(2020年6月)(抜粋)および資料
10 大学運営・財務 (1) 大学運営	大学企画評価会議事録(2020年10月)(抜粋)
	学務委員会議事録(2020年11月)(抜粋)
	教授会議事録(2020年11月)(抜粋)
	「神戸女学院例規集」
	学校法人神戸女学院寄附行為細則
	神戸女学院大学学長選考規程
	神戸女学院大学学長の選挙に関する取決め
	神戸女学院大学役職選挙に関する取決め
	神戸女学院大学教授会規程
	教授会の審議事項に関する取決め
	神戸女学院大学文学部教授会規程
	神戸女学院大学音楽学部教授会規程
	神戸女学院大学人間科学部教授会規程
	2021年度 学校法人神戸女学院理事会名簿
	神戸女学院大学連絡協議会規約
	学校法人 神戸女学院 危機管理マニュアル
	学校法人神戸女学院防火管理規程
	経理規程
	経理規程施行細則
	学校法人神戸女学院教職員就業規則
	事務職・教学職の資格制及び職階制の運用規程
	神戸女学院人事制度マニュアル
	学校法人神戸女学院一般職職員(事務職)規程
	学校法人神戸女学院専門職年俸制職員規程
	大学職員SD研修会 年度別実施状況
	大学職員SD研修会(案内等)
	大学職員SD研修会(出席状況)
	新任管理職研修
	労務管理研修
	内部質保証体制
	学校法人神戸女学院内部監査規程
	監事による監査報告書(2016年度～2020年度)
	監査法人による監査報告書(2016年度～2020年度)
	2020年度 学長室(FDセンター)案内セミナー一覧

10 大学運営・財務 (2) 財務	中期収支見通し(2021~2028年度)(中期計画期における予算・収支等の財政計画)
	財務計算書類(2016~2020年度)
	2020年度財産目録
	5ヵ年連続財務計算書類
その他	2021年度監査報告書(会計監査)
	2021年度監査報告書(監事)
	2021年度計算書類
	2020年度各学科・研究科 FD活動参加率一覧
	学生の履修登録状況(過去3年間)

神戸女学院大学提出・閲覧用準備資料一覧（実地調査）

	資料の名称
1 理念・目的	学院リトリート開催テーマ一覧
	2022年度学院リトリートプログラム
	「神戸女学院の宣教師-建物の名称を追って-中野敬一編」(抜粋)
	2022年度前期授業評価アンケート結果(キリスト教学)
	授業評価アンケート「キリスト教概説」「キリスト教学」記述抜粋
	2021年度卒業生・修了生アンケート結果
	大学企画評価会議 議事録(2015年11月,2016年2月)(抜粋)
	活動計画評価報告書:中期目標・計画報告書2021年度~2025年度(大学)
大学企画評価会議 議事録(2019年7月)(抜粋)	
2 内部質保証	活動計画評価報告書(A表)自己評価委員会・大学企画評価会議チェック項目
	2022年度大学事務職員名簿
	事務分掌規程
	2022年度FDセンター業務予定
	大学企画評価会議議事録(2018年2月,2019年5月)(抜粋),大学院委員会議事録(2018年3月)(抜粋)
	大学企画評価会議議事録(2017年10月,11月,2018年3月)(抜粋)
	2021年度卒業生・修了生アンケート(2018年度比)
	2021年度卒業生・修了生アンケート(2020年度比)
	大学・大学院自己評価委員会議事録(2022年4月)(抜粋),大学企画評価会議議事録(2022年4月)(抜粋)
	教授会研修会
	大学教授会研修会アンケート結果(2019年度)
	学部長会記録,大学企画評価会議議事録,大学改革委員会記録(2021~2022年度関係箇所抜粋)
	大学企画評価会議議事録(2020年9月,10月,2021年6月)(抜粋)
	大学企画評価会議議事録(2017年6月,7月,9月,10月)(抜粋)
	大学・大学院自己評価委員会議事録(2017年7月,11月)(抜粋)
	大学企画評価会議議事録(2021年5月)(抜粋)
	学務委員会議事録(2021年2月)(抜粋)および資料
	大学院委員会議事録(2021年2月)(抜粋)および資料
	大学企画評価会議議事録(2020年11月)(抜粋)
	大学企画評価会議議事録(2020,2019,2018年度各12月,1月)(抜粋)
	大学院委員会議事録(2020年9月)(抜粋)および資料
	大学院委員会議事録(2020年12月)(抜粋)および資料
	活動計画評価報告書
	大学企画評価会議議事録(2017年10月)(抜粋)
	大学・大学院自己評価委員会議事録(2017年11月)(抜粋)
	AB表の運用(新システムにおける点検評価の概要)
	2018年度自己点検・評価活動計画評価報告書記入要領説明会資料
3 教育研究組織	全学部2年生対象IP-TOEICオンライン結果報告
	新学部サイト
	ニュース「2024年4月国際学部・心理学部を新設します(いずれも仮称・設置構想中)」
	2021年度教職センター委員会(A表)年度別点検票報告書
	2020年度大学(B表)評価項目別点検評価報告書(基準3)
	大学将来計画委員会議事録(2021年12月)
	神戸女学院大学女性学インスティテュート規程
	神戸女学院大学研究所規程
全学部2年生対象IP-TOEICオンライン結果報告	
4 教育課程・学習成果	英文学科ポートフォリオ
	(キャリアデザインプログラム)参加一覧、アンケート結果等
	(地域創りリーダー養成プログラム)活動報告、報告会チラシ等
	(通訳・翻訳プログラム)ITP修了or修了予定者成績(17000~1900)
(通訳・翻訳プログラム)2021年度E415a・E415b,2022年度E415a振り返り	

4 教育課程・学習成果	(通訳・翻訳プログラム)《E17・E18》新カリキュラム検証アンケート結果
	文学部 学部長学科長ミーティング記録(2020年3月)
	大学・大学院自己評価委員会議事録(2022年2月)(抜粋)
	授業評価アンケート全体集計表
	教員アンケート記述抜粋
	学修計画書実例(英文学科)
	学修計画書実例(総合文化学科)
	教務委員会議事録(2016年12月)および資料
	Moodle 単語テスト画面
	「英語手帳 English Notebook」
	教務委員会議事録(2008年12月, 2009年1月)および資料、学務委員会議事録(2009年1月)および資料、教授会議事録(2009年1月)および資料
	(英文学科)Thesis Rubric_essays
	(総合文化学科)卒論発表会、岡田山論集等
	クローバーゼミアンケート結果
	大学企画評価会議議事録(2014年2月)(抜粋)
	2014年度秋季大学教授会研修会プログラム
	2018年問題検討WG報告書
	教務委員会議事録(2021年10月, 2022年4月, 5月)および資料, クローバーゼミ運営委員会議事録(2022年1月)および資料, 教授会議事録(2022年6月)および資料
	オープン科目履修者数
	教務委員会議事録(2021年4月)および資料, 教授会議事録(2021年12月)
	2021年英文学科「My Portfolio」p.9
	大学院委員会議事録(2020年9月, 12月)(抜粋)
	学修便覧(1948年, 1949年)(抜粋)
	2019年度「クローバーゼミ(A2クラス)」シラバス
	共通英語教育研究センター活動報告書 vol.1
	GE100 COMMUNICATION IN ENGLISH CONVERSATION & DISCUSSION SKILLS COURSEPACK
	2021年度「IT基礎演習(Aクラス)」, 「IT応用演習(Aクラス)」シラバス
	「総文でいかに学ぶか2021 総文120%活用術」
	Ps100(1)心理学入門ゼミガイダンス
	2021年度「入門ゼミ(Bクラス)」シラバス
	教務委員会議事録(2021年4月)(抜粋)
	教授会議事録(2021年1月)(抜粋)および資料
	教務委員会議事録(2020年5月)(抜粋)および資料
	「A Portrait of Kobe College」
	「英語手帳 English Notebook」
	2021年度「Thesis Writing」シラバス
	2021年度「声楽実技I」, 「器楽実技II」シラバス
	2021年度「副論文制作I」, 「副論文制作II」シラバス
	2021年度「クローバーゼミ(A1クラス)」, 「Communication in English a (BTクラス)」シラバス
	2021年度「臨床心理学特別研究II(Aクラス)」, 「臨床心理学特別研究II(Bクラス)」, 「臨床心理学特別研究II(Cクラス)」, 「臨床心理学特別研究II(Eクラス)」, 「健康科学特別研究I1(Bクラス)」, 「環境科学特別研究I1(Bクラス)」シラバス
	2020年度卒業生・修了生アンケート(質問紙)
	IP-TOEIC オンライン受験に関するお知らせ
	2021年度新入生 英語クラス分けテスト「TOEIC&RIPーテスト(オンライン)」の受験について
院生による大学院・大学院開講科目評価アンケート(2020年度)(集計結果)	
大学企画評価会議事録(2020年10月)(抜粋), 学務委員会議事録(2020年11月)(抜粋)	
大学企画評価会議事録(2020年10月)(抜粋)	
英文学科科別教授会議事録(2021年5月)(抜粋)	
共通英語教育センター活動評価書 vol.2 pp.89-91	
5 学生の受け入れ	教授会議事録(2021年2月)(抜粋)
	教授会議事録, 入学試験委員会議事録(2021~2022年度関係箇所抜粋)
	文学研究科委員会議事録(2022年5月)
	リカレント教育推進事業申請結果の件(大学企画評価会議報告資料(2022年6月))

5 学生の受け入れ	2022 年度大学院開講科目先取り履修について
	大学企画評価会議事録(2021 年 4 月, 2022 年 4 月)(抜粋)
	大学企画評価会議事録(2021 年 1 月)(抜粋)
	入試委員会議事録(2021 年 3 月)(抜粋)
	2022 年度入試問題作問・点検・印刷日程
	2022 年度入学試験関連日程
	入試問題原稿作成要領
	入試問題作成責任者用 入試問題作成ガイドライン
	入試ミス事例集
	教授会議事録(2021 年 2 月)(抜粋)
	2021 年度 文学研究科 英文学専攻 (A 表)年度別点検評価報告書
	2021 年度 文学研究科 比較文化学専攻 (A 表)年度別点検評価報告書
	2018 年度 入試委員会 (A 表)年度別点検評価報告書
	2019 年度 入試委員会 (A 表)年度別点検評価報告書
	2020 年度 入試委員会 (A 表)年度別点検評価報告書
	2021 年度 入試委員会 (A 表)年度別点検評価報告書
	2018 年度 英文学科 (A 表)年度別点検評価報告書
	2019 年度 英文学科 (A 表)年度別点検評価報告書
	2020 年度 英文学科 (A 表)年度別点検評価報告書
	2021 年度 英文学科 (A 表)年度別点検評価報告書
	2018 年度 音楽学科 (A 表)年度別点検評価報告書
	2019 年度 音楽学科 (A 表)年度別点検評価報告書
	2020 年度 音楽学科 (A 表)年度別点検評価報告書
6 教員・教員組織	2022 年度 文学研究科 英文学専攻 (B 表)評価項目別点検評価報告書(基準 6)
	教養科目(コア科目)担当者一覧
	次年度担当者依頼の事務の流れ(教務委員会資料(2021 年 7 月))
	教員活動評価表(個人/全学科・所属学科)見本
	授業公開閲覧数(2019~2021 年度)
	授業改善コメント(学生による授業評価に関する教員アンケートより)
	人事委員会規程および人事委員会資料目次
2020 年度 FD 活動報告(学科・研究科)	
7 学生支援	学生主事引継事項
	学校法人神戸女学院教職員給与規則(抜粋)
	学生主事会議事録(2021 年 2 月)(抜粋)
	学生主事の職務(学生主事会協議資料(2021 年 2 月))
	入寮式参加教員
	学生主事会議事録(2022 年 6 月)(抜粋)
	神戸女学院大学ティーチング・アシスタント規程
	2022 年度 TA 採用状況
	2021 年度 TA 採用状況
	2022 年度「比較文化学総合演習」シラバス
	(キャリアセンター)お薦めインターンシップ
	(キャリアセンター)グローバル就職セミナー
	(キャリアセンター)エアライン直前面接対策講座
	(キャリアセンター)「キャリアサポートプログラム」をハイブリッド形式
	(キャリアセンター)「公務員受験対策ガイダンス」専門学校 3 校
	(キャリアセンター)学生への教室貸出し対応
	ニュース 「「2022 年有名企業 400 社 実就職率ランキング」西日本の私立女子大学で 3 年連続 1 位に！」
	学生生活実態調査(アセスメント・プランに基づく活動報告書 No. 18, 20)
	2022 年度 ボランティア・サポート委員会 (A 表)年度別点検評価報告書
	大学院生・障がいのある学生に対するキャリア支援について改善の依頼
	大学企画評価会議事録(2022 年 2 月)(抜粋)
	認証評価申請用の自己点検・評価報告書より各章の問題点を抜粋(大学企画評価会議事資料(2022 年 2 月))

7 学生支援	(メール)キャリアセンターからの回答
	大学企画評価会議議事録(2020年11月)(抜粋)
	不服申し立て窓口設置に関する要望書
	障がい学生支援委員会議事録(2021年1月)(抜粋)
	学生支援ネットワーク定例会議議事録(2021年6月)(抜粋)
	学生主事会議事録(2020年11月,2021年2月)(抜粋)
	学生主事会議事録(2021年6月)(抜粋)
	神戸女学院大学カウンセリングルーム紀要(第21号,第23号)
	寮生活の手引き
	学生寮運営委員会日程(2021年5月)
	神戸女学生のための就活入門講座～納得いく就活のために～【2022卒版】
	卒業生・修了生アンケート(全学科)(2016～2020年度)集計結果
	2020年度「家族臨床心理学」シラバス
	神戸女学院大学大学院人間科学研究科心理相談室紀要「心理相談研究」(第19号)
	理学館別館に関する課題について 「The Edgewood Review」vol.45
8 教育研究等環境	大学将来計画委員会議事録(2020年度～2022年度関係箇所抜粋)
	科学研究費補助金の申請数を上げるための組織的対応(研究所)
	リサーチアシスタント一覧
	授業登録用サイトの画面
	引用と盗用、剽窃について
	2022年度「クローバーゼミシラバス(A1クラス)」シラバス
	ID110(2)クローバーゼミ(Moodleコース画面)
	2021年度 大学 (B表)評価項目別点検評価報告書(基準8)
	拡大部長会記録(2021年3月)
	9 社会連携・社会貢献
(地域創りリーダー養成プログラム)ニュース「西宮浜1「はまっこチャンネル」を公開しました」	
(地域創りリーダー養成プログラム)2021年度井戸端会議等	
(アウトリーチ)アンケート様式、集計結果	
(地域創りリーダー養成プログラム)2021年度後期中間報告会資料	
(地域創りリーダー養成プログラム)2020学生アンケート集計(12期生)	
(地域創りリーダー養成プログラム)西宮浜マリナコミュニティ第22号(抜粋)	
国際化推進委員会議事録(2021年1月,2022年2月,7月)	
地域連携推進委員会議事録(2022年2月)	
精神保健福祉士養成課程専門委員会議事録(2021年4月)(抜粋)および資料	
2020年度「心理実践実習III」シラバス	
10 大学運営・財務 (1) 大学運営	大学企画評価会議日程(2021年6月,7月)
	大学企画評価会議議事録(2021年11月)(抄)
	過去の目標・計画(2020,2021年度)
	2022年度事業計画の説明資料・公表用
	(メール)2021年度第1次修正予算について
	2022年度大学各委員会構成員
	セミナー案内(参加者一覧)
	教授会研修会参加者報告(教授会議事録(2020,2021年度)(抜粋))
	大学・大学院自己評価委員会,大学企画評価会議日程(2022年1月,2月)
	大学企画評価会議議事録(2022年2月)(抄)
10 大学運営・財務 (2) 財務	2022年度第一次修正予算について・予算委員会専用
	2022年度事業計画の説明資料・公表用
その他	国際学部設置案
	心理学部設置案
	科研費 採択・申請件数
	大学企画評価会議議事録(2021年11月)(抜粋)

その他	大学企画評価会議議事録(2020年11月)(抜粋)
	大学企画評価会議議事録(2020年1月)(抜粋)
	2019年度外部評価総括
	大学企画評価会議議事録(2019~2021年)(抜粋)
	研究科における研究倫理(コンプライアンス)教育
	「Thesis Writing」シラバス
	「Thesis Writing」にて使用しているテキスト例
	「比較文化学総合演習」等シラバス
	「人間科学合同演習」等シラバス
	「人間科学合同演習」2022年度初回・2回目授業資料
	「人間科学合同演習」本学の倫理申請について
	音楽研究科コンプライアンス教育について
	「副論文制作 I」シラバス
	大学院生研究倫理教育補足資料